1 導　入 編

本装置や添付のソフトウェアの特長、導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。また、セットアップの際の手順を説明しています。ここで説明する内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

ONL-4132eN-140He-000-01-0511

本装置の特長

お買い求めになられた本装置の特長を次に示します。

高性能

- 64-bit Intel® Xeon® Processor MP搭載
  - N8100-1036: 3.16GHz/1MB
  - N8100-1037: 3.66GHz/1MB
  - N8100-1084: 3.33GHz/8MB

  Dualcore Intel® Xeon® Processor 7040搭載
  - N8100-1150: 3GHz/2x2MB
- 高速メモリアクセス(DDRII 400規格インターリーブ方式)
- 高速1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-Tインタフェース(ポート1、ポート2)
- 高速SCSIインタフェース(Ultra 320 SCSI)

高信頼性

- メモリミラーリング機能
- メモリRAID機能
- オンラインスペアメモリ機能
- メモリ監視機能(1ビットエラー訂正/2ビットエラー検出)
- メモリ/プロセッサ縮退機能(障害を起こしたデバイスの論理的な切り離し)
- バスパリティエラー検出
- 温度検知
- 異常通知
- 内蔵ファン回転監視機能
- 内部電圧監視機能
- 電源ユニットの冗長機能(ホットスワップ対応)
- ハードディスクドライブのオンボードRAID機能
- オートリビルド機能(ホットスワップ対応)
- BIOSパスワード機能
- フロントドアによるセキュリティロック
- システムBIOSの二重化

管理機能

- ESMPROプロダクト
- DianaScope
- リモートマネージメント機能

保守機能

- オフライン保守ユーティリティ
- DUMPスイッチによるメモリダンプ機能

省電力機能

スリープ機能(Windows Server 2003/Windows 2000のみ)

拡張性

- 豊富なIOオプションスロット
  - 32-bit・33MHz PCIバス: 2スロット
  - 64-bit・100MHz PCI-Xバス: 4スロット(ホットプラグ対応)
  - PCI Express×4: 1スロット(×8ボードも実装可能)
  - PCI Express×8: 2スロット(ホットプラグ対応)
- 最大32GBの大容量メモリ
- 最大4マルチプロセッサまでアップグレード可能
- リモートパワーオン機能
- 標準で最大5台、増設HDDケージを搭載すると最大13台のハードディスクドライブを搭載可能(ホットスワップ対応)
- USB対応
- タワータイプからラックマウントタイプへのコンバーチブル可能(N8143-33 ラックコンバージョンキットが必要)

すぐに使える

- Microsoft® Windows Server™ 2003 x64 Editions 日本語版、Microsoft® Windows Server™ 2003 日本語版またはLinuxインストール済み(BTO(工場組み込み出荷)の場合)
- ハードディスクドライブと電源ユニットはケーブルを必要としないワンタッチ取り付け(ホットスワップ対応)

豊富な機能搭載

- グラフィックスアクセラレータ「RADEON7000」採用
- El Torito Bootable CD-ROM(no emulation mode)フォーマットをサポート
- POWERスイッチマスク
- ソフトウェアPower Off
- リモートパワーオン機能
- AC-LINK機能
- インテリジェント・プラットフォーム・マネージメント・インタフェース(IPMI)
- ベースボード・マネージメント・コントローラ(BMC)
- コンソールレス機能

自己診断機能

- Power On Self-Test(POST)
- システム診断(T&D)ユーティリティ

便利なセットアップユーティリティ

- EXPRESSBUILDER(システムセットアップユーティリティ)
- ExpressPicnic(セットアップパラメータFD作成ユーティリティ)
- SETUP(BIOSセットアップユーティリティ)
- ディスクアレイユーティリティ

本装置では、高い信頼性を確保するためのさまざまな機能を提供しています。
各種リソースの冗長化や、ディスクアレイなどといったハードウェア本体が提供する機能と、本装置に添付されているESMPROなどのソフトウェアが提供する監視機能との連携により、システムの障害を未然に防止または早期に復旧することができます。
また、停電などの電源障害から本装置を守る無停電電源装置、万一のデータ損失に備えるためのバックアップ装置などといった各種オプション製品により、さらなる信頼性を確保することができます。
各機能はそれぞれ以下のハードウェアおよびソフトウェアにより実現しています。

管理分野	必要なハードウェア	必要なソフトウェア
サーバ管理	サーバ本体機能	ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent DianaScope
ストレージ管理 ● ディスク管理 ● バックアップ管理	 ディスクアレイコントローラ* オンボードRAID機能 DAT/AIT/LTOなど*	 ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent Power Console Plus NTバックアップツール ARCserve for Windows NT* BackupExec*、NetBackup*
電源管理	無停電電源装置(UPS)*	ESMPRO/UPSController* PowerChute *plus** (注) 無停電電源装置により、使用するソフトウェアが異なります。
ネットワーク管理	各種ネットワークボード	WebSAM/Netvisor*など

* オプション製品

サーバ管理

本装置はシステムボード上に標準でシステム監視チップを搭載しており、本装置に内蔵されている以下の各種リソースを監視します。これらのハードウェア機能と本装置管理用ソフトウェア「ESMPRO/ServerManager」、「ESMPRO/ServerAgent」が連携し、本装置の稼動状況などを監視するとともに万一の障害発生時にはただちに管理者へ通報します。
ESMPRO/ServerAgentをインストールした場合、データビューアの項目ごとの機能概要は次ページのとおりです。
また、DianaScopeにより、本装置上でオペレーティングシステムが稼動していない状態でのリモート操作/保守を管理PCから行ったり、リモートパワーオン機能により、リモートのPC上から本装置の電源を投入したりすることができます。

ESMPRO/ServerManager、およびESMPRO/ServerAgent、DianaScopeは、本装置に標準で添付されています。
各ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

機能名		機能概要
ハードウェア		HWの物理的な情報を表示する機能です。
	メモリバンク	メモリの物理的な情報を表示する機能です。
	装置情報	装置固有の情報を表示する機能です。
	プロセッサ	プロセッサの物理的な情報を表示する機能です。
システム		プロセッサの論理情報参照や負荷率の監視をする機能です。 メモリの論理情報参照や状態監視をする機能です。
I/Oデバイス		I/Oデバイス(フロッピーディスクドライブ、シリアルポート、パラレルポート、キーボード、マウス、ビデオ)の情報参照をする機能です。
システム環境		温度、ファン、電圧、電源、ドアなどを監視する機能です。
	温度	筐体内部の温度を監視する機能です。
	ファン	ファンを監視する機能です。
	電圧	筐体内部の電圧を監視する機能です。
	電源	電源ユニットを監視する機能です。
	ドア	ドア（筐体のカバー）の開閉を監視する機能です。
ソフトウェア		サービス、ドライバ、OSの情報を参照する機能です。
ネットワーク		ネットワーク(LAN)に関する情報参照やパケット監視をする機能です。
拡張バスデバイス		拡張バスデバイスの情報を参照する機能です。
BIOS		BIOSの情報を参照する機能です。
ローカルポーリング		ESMPRO/ServerAgentが取得する任意のMIB項目の値を監視する機能です。
ストレージ		ハードディスクドライブなどのストレージデバイスやコントローラを監視する機能です。
ファイルシステム		ファイルシステム構成の参照や使用率監視をする機能です。
ディスクアレイ		LSI Logic社製およびPromise社製ディスクアレイコントローラを監視する機能です。
その他		Watch Dog Timer（OSのストールを監視するタイマー）によるOSストール監視をする機能です。
		OS STOPエラー発生後の通報処理を行う機能です。

メモリのHot-Add/Remove機能使用時のメモリサイズの表示について

Hot-Add/Remove機能を使用して動的にメモリボードを抜き差しした場合、ESMPRO/ServerManagerのデータビューアで[ハードウェア]-[メモリバンク]-[X]メモリバンクの[モジュールサイズ]にて、構成変更後のメモリサイズは反映されません。
(※Xは動的に抜き差ししたメモリバンクの番号になります。)
システム再起動後、メモリサイズは正しく反映されます。

Disk増設ユニット[N8141-36A]の監視について

Disk増設ユニット[N8141-36A]には、以下のオプション製品が必要です。

- **Disk増設ユニット側**
  - ICMBボード[N8191-08]
- **監視サーバ側**
  - ICMBケーブル[K410-107]

ESMPRO/ServerAgentにてDisk増設ユニットを監視するには、コントロールパネルの「システム」タブの「Disk増設ユニット」-「監視する」チェックボックスをチェックしてください。

ストレージ管理

大容量のストレージデバイスを搭載・接続できる本装置を管理するために次の点について留意しておきましょう。

ディスク管理

ハードディスクドライブの耐障害性を高めることは、直接的にシステム全体の信頼性を高めることにつながると言えます。本装置が提供するオンボードRAIDやディスクアレイコントローラを使用することにより、ハードディスクドライブをグループ化して冗長性を持たせることでデータの損失を防ぐとともに、ハードディスクドライブの稼働率を向上することができます。

また、Power Console PlusとESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentとの連携により、ディスクアレイの状況をトータルに監視し、障害の早期発見や予防措置を行い、ハードディスクドライブの障害に対して迅速に対処することができます。

ESMPRO/ServerManagerやESMPRO/ServerAgent、Power Console Plusは、本装置に標準で添付されています。ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

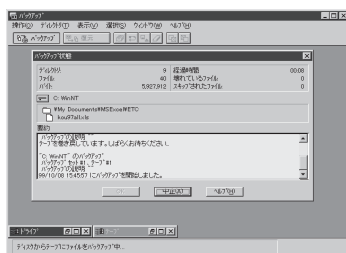
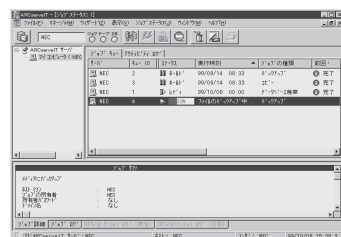
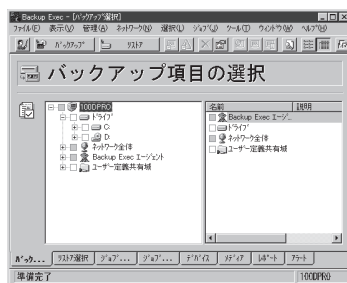
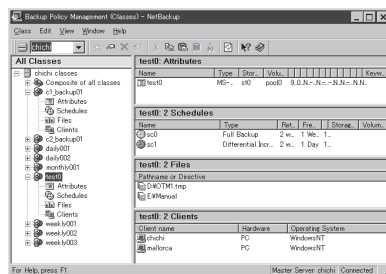
オンボードRAID/ ディスクアレイコントローラの機能	機能の概要
RAIDレベル	RAID 0,1,5の各レベルおよび、RAID 1のスパンをサポートします。
ホットスワップ	システムが稼働している状態でハードディスクドライブを交換することができます。
オートリビルド	故障したハードディスクドライブを新品のハードディスクドライブに交換した後、残りのハードディスクドライブのデータから故障したハードディスクドライブが持っていたデータを自動的に復元します。
エキスパンドキャパシティ	稼働中のシステムを停止することなくハードディスクドライブの増設をすることにより、ディスクアレイの使用可能領域や論理ドライブを自動的に拡張します。

バックアップ管理

定期的なバックアップは、不意の本装置のダウンに備える最も基本的な対応です。
本装置には、データバックアップ用のデバイスと自動バックアップのための各種ソフトウェアが用意されています。容量や転送スピード、バックアップスケジュールの設定など、ご使用になる環境に合わせて利用してください。

デバイス名	説　明
DAT	標準規格としての互換性も備えており、広く利用されているバックアップメディア。データバックアップが可能。小～中規模システム向け。
LTO	基幹業務等大規模システム向けの高性能バックアップ装置。
AIT	データバックアップが可能。中規模システム向け。

本装置には、磁気テープドライブなどのSCSI対応の5.25インチバックアップデバイスを取り付けるスロットが2つ用意されています。

ソフトウェア名	説明
NTBackup (Windows標準)	Windows標準のバックアップツール。 単体バックアップ装置に単純なバックアップを行うときに使用。
ARCserve (コンピュータ・アソシエイツ社)	PCサーバのバックアップツール。 スケジュール運用が可能で、集合バックアップ装置、DBオンラインバックアップなどに対応可能。
BackupExec (ベリタスソフトウェア社)	PCサーバのバックアップツール。 NTBackupと同一テープフォーマットを使用。 スケジュール運用が可能で、集合バックアップ装置、DBオンラインバックアップなどに対応可能。
NetBackup (ベリタスソフトウェア社)	異種プラットフォーム環境で統合的な制御/管理を実現した、BackupExecの上位バックアップツール。基幹業務など大規模システムまで対応。オープンファイルバックアップ、Disaster Recoveryを標準サポート。DBオンラインバックアップなどに対応可能。

NTBackup(Windows標準)

ARCserve(コンピュータ・アソシエイツ社)

BackupExec
(ベリタスソフトウェア社)

NetBackup
(ベリタスソフトウェア社)

電源管理

商用電源のトラブルは、システムを停止させる大きな原因のひとつです。
停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要因となる場合があります。
無停電電源装置(UPS)は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始めると、自動的にバッテリから電源を供給し、システムの停止を防ぎます。システム管理者は、その間にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。さらに電圧や電流の変動を抑え、電源装置の寿命を延ばして平均故障間隔(MTBF)の延長にも貢献します。また、スケジュール等による本装置の自動・無人運転を実現することもできます。

ネットワーク管理

ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentを使用することにより、本装置に接続されているLANの障害や、回線の負荷率等を監視することができます。
また、別売りのWebSAM/Netvisorなどを利用することにより、ネットワーク全体の管理を行うことができます。

システムBIOSの二重化

システムBIOSはプライマリBIOSとセカンダリBIOSのふたつのBIOSを運用することによって、二重化を実現しています。
通常時にはプライマリBIOSを起動してシステムを運用しますが、プライマリBIOSのデータ障害や、システムBIOSが格納されているデバイスの故障が発生した場合などには、速やかに運用をセカンダリBIOSに移します。
このような運用によって、システムBIOSの不具合によるシステム起動不可が発生しないようにしています。
なお、出荷時にはプライマリBIOSとセカンダリBIOSには、最新版のシステムBIOSが納されています。システムBIOSのアップデートを実行すると、セカンダリBIOSがアップデートされ、こちらがプライマリBIOSに切り替わります。
その後このプライマリBIOSから起動されます。

導入にあたって

本装置を導入するにあたって重要なポイントについて説明します。

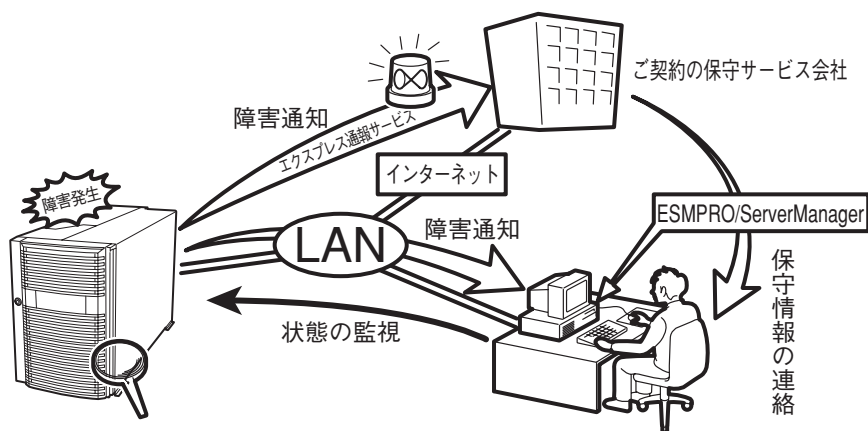
システム構築のポイント

実際にセットアップを始める前に、以下の点を考慮してシステムを構築してください。

運用方法の検討

「本装置の特長」での説明のとおり、本装置では運用管理・信頼性に関する多くのハードウェア機能や添付ソフトウェアを備えています。
システムのライフサイクルの様々な局面において、「各ハードウェア機能および添付ソフトウェアのどれを使用して、どのように運用するか？」などを検討し、それに合わせて必要なハードウェアおよびソフトウェアのインストール/設定を行ってください。

稼動状況・障害の監視および保守

本装置に標準で添付された「ESMPRO/ServerManager」および「ESMPRO/ServerAgent」を利用することにより、リモートから本装置の稼動状況や障害の監視を行い、障害を事前に防ぐことや万一の場合に迅速に対応することができます。
本装置を運用する際は、「ESMPRO/ServerManager」および「ESMPRO/ServerAgent」を利用して、万一のトラブルからシステムを守るよう心がけてください。

なお、本装置に障害が発生した際に、ご契約の保守サービス会社がアラーム通報を受信して保守を行う「エクスプレス通報サービス」を利用すれば、低コストでExpress5800シリーズの障害監視・保守を行うことができます。
「エクスプレス通報サービス」をご利用することもご検討ください。

システムの構築・運用にあたっての留意点

システムを構築・運用する前に、次の点について確認してください。

出荷時の状態を確認しましょう

お買い求めになられた本装置を導入する前に、本装置の出荷時の状態を確認しておいてください。

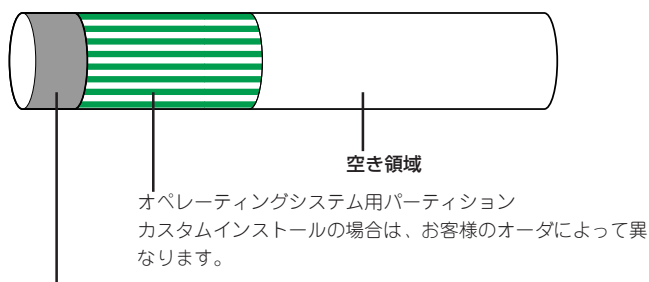
- **システムやオペレーティングシステムのインストール状態について**

本装置では、ご注文により出荷時の状態に次の2種類があります。

出荷時のモデル	説　明
カスタムインストール	BTO（工場組み込み出荷）にてWindows Server 2003 x64 Editions、Windows Server 2003またはLinuxインストールを指定された場合。
未インストール	ディスクレスモデルを購入され、BTO（工場組み込み出荷）によるOSのインストールを希望されなかった場合。

出荷時のオペレーティングシステムのインストール状態により、必要なセットアップ作業が異なります。14ページの説明に従ってセットアップを行ってください。

- **パーティション構成について**

本装置では、セットアップすると1台目のディスクの先頭に保守用の領域（保守用パーティション）が自動的に作成されます。

出荷時にオペレーティングシステムがインストールされていない場合は、保守用パーティションは作成されていません。EXPRESSBUILDERを使ってセットアップをすると自動的に保守用パーティションが作成されます。

保守用パーティションは保守時に必要な各種ユーティリティが格納されています。作成されている保守用パーティションは削除しないでください。

セットアップの手順を確認しましょう

システムを構築するにあたり、本装置のセットアップは必要不可欠なポイントです。
本装置のセットアップを始める前にセットアップをどのような順序で進めるべきか十分に検討してください。
必要のない手順を含めたり、必要な手順を省いたりすると、システムの構築スケジュールを狂わせるばかりでなく、本装置が提供するシステム全体の安定した運用と機能を十分に発揮できなくなります。

1. 運用方針と障害対策の検討

本装置のハードウェアが提供する機能や採用するオペレーティングシステムによって運用方針やセキュリティ、障害への対策方法が異なります。

「本装置の特長(2ページ)」に示す本装置のハードウェアやソフトウェアが提供する機能を十分に利用したシステムを構築できるよう検討してください。

また、システムの構築にあたり、ご契約の保守サービス会社および弊社営業担当にご相談されることもひとつの手だてです。

2. ハードウェアのセットアップ

本装置の電源をONにできるまでのセットアップを確実に行います。この後の「システムのセットアップ」を始めるために運用時と同じ状態にセットアップしてください。詳しくは、15ページに示す手順に従ってください。

ハードウェアのセットアップには、ラックの設置やオプションの取り付け、周辺装置の接続に加えて、BIOSの設定などの内部的なパラメータのセットアップも含まれます。ご使用になる環境に合わせたパラメータの設定はオペレーティングシステムや管理用ソフトウェアと連携した機能を利用するために大切な手順のひとつです。

3. システムのセットアップ

オプションの取り付けやBIOSの設定といったハードウェアのセットアップが終わりましたら、ハードディスクドライブのパーティションの設定やディスクアレイの設定、オペレーティングシステムや管理用ソフトウェアのインストールに進みます。

<初めてのセットアップの場合(Windows)>

初めてのセットアップでは、お客様が注文の際に指定されたインストールの状態によってセットアップの方法が異なります。

「カスタムインストール」を指定して購入された場合は、本装置の電源をONにすれば自動的にセットアップが始まります。セットアップの途中で表示される画面のメッセージに従って必要事項を入力していけばセットアップは完了します。

「未インストール」にて購入された場合は、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMが提供する自動セットアップユーティリティ「シームレスセットアップ」を使用します。シームレスセットアップでは、はじめにセットアップに必要な情報を選択・入力するだけであとの作業はシームレス(切れ目なく)で自動的に行われます。

<再セットアップの場合(Windows)>

シームレスセットアップを使用してください。煩雑な作業をシームレスセットアップが代わって行います。

[インストールするOSによってシームレスセットアップの手順が少しだけ変わります]

本装置がサポートしているOSは次のとおりです。

- Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard x64 Edition 日本語版(以降、「Windows Server 2003 x64 Editions」と呼ぶ)
- Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise x64 Edition 日本語版(以降、「Windows Server 2003 x64 Editions」と呼ぶ)
- Microsoft® Windows Server™ 2003 Standard Edition 日本語版(以降、「Windows Server 2003」と呼ぶ)
- Microsoft® Windows Server™ 2003 Enterprise Edition 日本語版(以降、「Windows Server 2003」と呼ぶ)
- Microsoft® Windows® 2000 Server 日本語版(以降、「Windows 2000」と呼ぶ)
- Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server 日本語版(以降、「Windows 2000」と呼ぶ)
  Windows 2000ご使用の際は、Service Pack 4以上を適用ください。
- Linux(サポートしているディストリビューションについては、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。)

Linuxのインストールおよび管理ソフトウェアのインストールとセットアップは、Express5800/Linuxインストール代行サービス説明書を参照してください。

その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

「Windows Server 2003」または「Windows 2000」では、ディスクアレイの設定からOSのインストール、管理用ソフトウェアのインストールまでの作業をシームレスセットアップが行います。セットアップでは、シームレスセットアップを利用することをお勧めします。

Windows Server 2003 x64 Editionsではシームレスセットアップは使用できません。「Microsoft Windows Server 2003, Standard x64 Edition/Microsoft Windows Server 2003, Enterprise x64 Editionインストレーションサプリメントガイド」を参照し、「マニュアルセットアップ」を使用してください。

4. 障害処理のためのセットアップ(Windows)

障害が起きたときにすぐに原因の見極めや解決ができるよう障害処理のためのセットアップをしてください。Windows Server 2003 x64 Editions、Windows Server 2003またはWindows 2000に関しては、本書で説明しています。

5. 管理用ソフトウェアのインストールとセットアップ(Windows)

出荷時にインストール済みの管理用ソフトウェアや、シームレスセットアップやマニュアルでインストールしたソフトウェアをお使いになる環境にあった状態にセットアップします。また、本装置と同じネットワーク上にある管理PCにインストールし、本装置を管理・監視できるソフトウェアもあります。併せてインストールしてください。詳しくは「ソフトウェア編」をご覧ください。

6. システム情報のバックアップ

保守ユーティリティ「オフライン保守ユーティリティ」を使って本装置の設定情報のバックアップを作成します。I/Oボードの故障などによるパーツ交換後に以前と同じ状態にセットアップするために大切な手順です。詳しくは48ページまたは73ページをご覧ください。

各運用管理機能を利用するにあたって

本装置で障害監視などの運用管理を行うには、本装置に添付されたESMPRO/ServerAgent、ESMPRO/ServerManagerまたは別売りのソフトウェアが必要となります。
この後で説明するセットアップ手順またはソフトウェアの説明書(別売の場合)に従って各ソフトウェアのインストールおよび必要な設定を行ってください。

各運用管理機能を利用する際には、以下の点にご注意ください。

サーバ管理機能を利用するにあたって

- プロセッサ/メモリ縮退機能を利用する場合やプロセッサやメモリを交換した場合は、BIOSのコンフィグレーションが必要です。「システムBIOS(187ページ)」を参照して「Processor Settings」や「Advanced」内の「Memory Configuration」の各項目を設定してください。
- 本装置の各コンポーネント(プロセッサ/メモリ/ディスク/ファン)の使用状況の監視やオペレーティングシステムのストール監視など、監視項目によってはESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentでしきい値などの設定が必要になります。詳細は、各ソフトウェアに関する説明やオンラインヘルプなどを参照してください。

ストレージ管理機能を利用するにあたって

- **ディスクアレイシステムを使用する場合**
  - Power Console Plusをインストールしておく必要があります。「ソフトウェア編」の「Power Console Plus(サーバ)」の説明に従って本装置にPower Console Plus(サーバ)をインストールしてください。また、リモートからの監視をする場合は別途、管理PCにPower Console Plus(管理PC)をインストールしてください。
  - ディスクアレイシステムを構築する際は、ディスク稼働率や予防保守性を高めるために、定期的にアレイディスクの整合性をチェックしてください。

    詳しくはオンラインドキュメント「Power Console Plusユーザーズマニュアル」の「定期的な整合性チェックの実施」を参照してください。
- **バックアップファイルシステムを使用する場合**

  テープドライブやテープの状態を監視するためには「テープ監視ツール」のインストールが必要です。「ソフトウェア編」の「テープ監視ツール」の説明に従ってインストールしてください。また、テープドライブを使用する場合はクリーニングテープを使って定期的にヘッドを清掃するよう心がけてください。ヘッドの汚れはデータの読み書きエラーの原因となり、データを正しくバックアップ/リストアできなくなります。

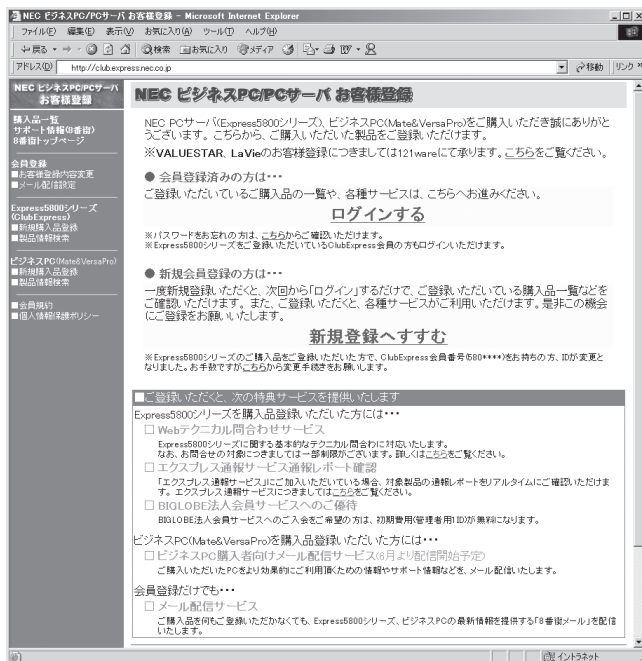
電源管理機能を利用するにあたって

- 無停電電源装置(UPS)を利用するには、専用の制御用ソフトウェア(ESMPRO/UPSController、PowerChute *plus*)または、オペレーティングシステム標準のUPSサービスのセットアップが必要です。
- 無停電電源装置を利用する場合、自動運転や停電回復時の本装置の自動起動などを行うにはBIOSの設定が必要です。「システムBIOS(187ページ)」を参照して、「Server」メニューにある「AC-LINK」の設定をご使用になる環境に合った設定に変更してください。

お客様登録

NECでは、製品ご購入のお客様に「Club Express会員」への登録をご案内しております。添付の「お客様登録申込書」に必要事項をご記入の上、エクスプレス受付センターまでご返送いただくか、Club Expressのインターネットホームページ

http://club.express.nec.co.jp/

にてご登録ください。

「Club Express会員」のみなさまには、ご希望によりExpress5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスを、無料で提供させていただきます。サービスの詳細はClub Expressのインターネットホームページにて紹介しております。是非、ご覧ください。

セットアップを始める前に

セットアップの順序と参照するページを説明します。セットアップはハードウェアから始めます。

重要

ＢＴＯ（工場組み込み出荷）にてWindowsのインストールを指定した場合は、本装置にWindowsのプロダクトキーが記載されたIDラベルが貼りつけられています。

OSのセットアップや再インストール時に必ず必要な情報です。剥がしたり汚したりしないよう注意してください。もし剥がれたり汚れたりして見えなくなった場合はお買い求めの販売店または保守サービス会社に連絡してください。あらかじめプロダクトキーをメモし、他の添付品といっしょにメモを保管されることをお勧めします。

EXPRESSBUILDERがサポートしているオプションボード

添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMでサポートしているオプションボードは、以下になります。もし、下記以外のオプションボードを接続するときは、オプションボード添付の説明書と「応用セットアップ」(49ページ)を参照してセットアップしてください。

[Windows Server 2003 x64 Editionsの場合]の場合

- EXPRESSBUILDERにてOSのインストールをサポートしているディスクアレイコントローラ
  - オンボードRAID(I/Oボード上のコントローラを使用)
  - N8103-81 ディスクアレイコントローラ(2ch)
- その他のオプション
  - N8103-75 SCSIコントローラ
  - N8103-95 SCSIコントローラ
  - N8190-126 SCSIコントローラ

[Windows Server 2003、Windows 2000の場合]

- EXPRESSBUILDERにてOSのインストールをサポートしているディスクアレイコントローラ
  - オンボードRAID(I/Oボード上のコントローラを使用)
  - N8103-81 ディスクアレイコントローラ(2ch)
- その他のオプション
  - N8103-65 SCSIコントローラ
  - N8103-75 SCSIコントローラ
  - N8103-95 SCSIコントローラ
  - N8190-126 SCSIコントローラ

ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。

1. 本装置を設置する。（→102ページ）
2. 別途購入したオプションを取り付ける。（→130ページ）

ヒント

Windows Server 2003をお使いの環境で次のオプションを増設した場合は、OSの起動後に次の操作を行ってください。

－ DIMMを増設した場合は「ページングファイルサイズ」を設定し直してください。

詳しくは28ページ(Windows Server 2003)を参照してください。

－ 本装置を1プロセッサから2プロセッサ以上に増設した場合は、デバイスマネージャの「コンピュータ」のドライバを「ACPIマルチプロセッサPC」に変更し、画面に従って再起動後、システムのアップデート(48ページまたは72ページ)を行ってください。

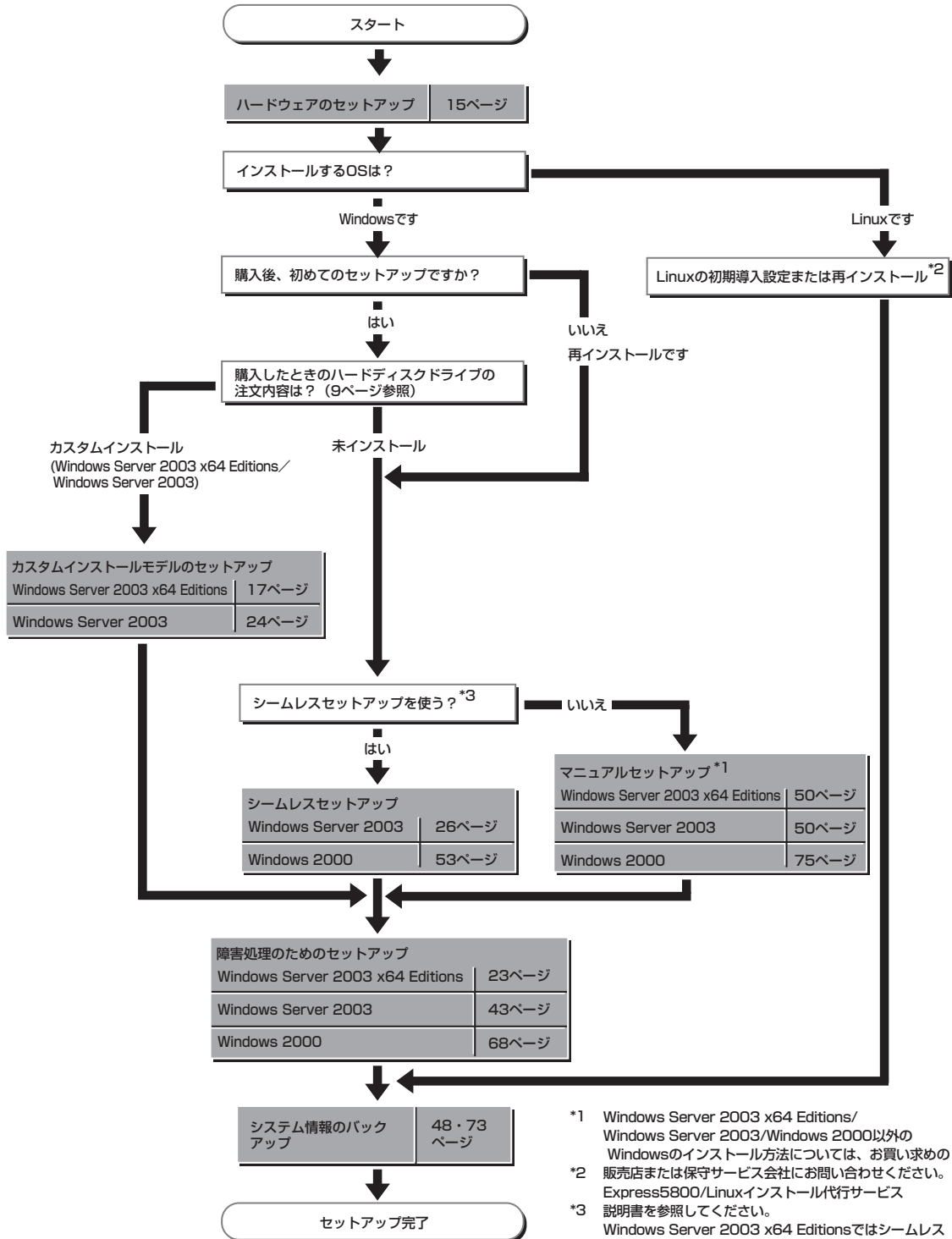
3. ディスプレイ装置やマウス、キーボードなどの周辺装置を本装置に接続する。（→104ページ）
4. 添付の電源コードを本装置と電源コンセントに接続する。（→106ページ）
5. 本装置の構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。

190ページに示す設定例を参考にしてください。

重要

BIOSの設定には日付や時間の設定もあります。正しく設定されているか必ず確認してください。

システムのセットアップ

ハードウェアのセットアップを完了したら、お使いになるオペレーティングシステムに合わせて後述の説明を参照してください。再インストールの際にも参照してください。

*1 Windows Server 2003 x64 Editions/ Windows Server 2003/Windows 2000以外の Windowsのインストール方法については、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

*2 Express5800/Linuxインストール代行サービス説明書を参照してください。

*3 Windows Server 2003 x64 Editionsではシームレスセットアップは使用できません。

Windows Server 2003 x64 Editionsのセットアップ

ハードウェアのセットアップを完了してから、Windows Server 2003 x64 Editionsやシステムのセットアップをします。再インストールの際にも参照してください。

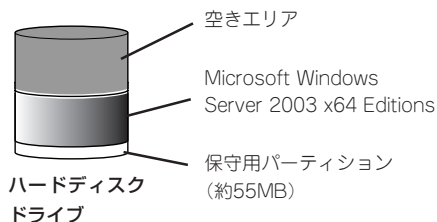
カスタムインストールモデルのセットアップ

BTO(工場組み込み出荷)にて「カスタムインストール」を指定して購入された本装置のハードディスクドライブは、お客様がすぐに使えるようにパーティションの設定から、OS、管理用ソフトウェアなどがすべてインストールされています。

ここで説明する手順は、「カスタムインストール」を指定して購入された本装置で初めて電源をONにするときのセットアップの方法について説明しています。再セットアップをする場合は、EXPRESSBUILDERに格納されている オンラインドキュメント「Microsoft Windows Server 2003, Standard x64 Edition/Microsoft Windows Server 2003, Enterprise x64 Editionインストレーションサプリメントガイド」の「マニュアルセットアップ」を参照してください。

セットアップをはじめる前に　― 購入時の状態について ―

セットアップを始める前に次の点について確認してください。

本装置のハードウェア構成(ハードディスクドライブのパーティションサイズも含む)やハードディスクドライブにインストールされているソフトウェアの構成は、購入前のお客様によるオーダーによって異なります。
右図は、標準的な本装置のハードディスクドライブの構成について図解しています。

セットアップの手順

次の手順で本装置を起動して、セットアップをします。

1. 周辺装置、本装置の順に電源をONにし、そのままWindowsを起動する。

   [Windows Server 2003 x64 Editiionセットアップ]画面が表示されます。

2. [次へ]をクリックする。

   [使用許諾契約]画面が表示されます。

3. [同意します]にチェックをして、[次へ]をクリックする。

   以降、使用者名などの設定画面が次々と表示されます。

4. 画面の指示に従って必要な設定をする。

   セットアップの終了を知らせる画面が表示されます。

5. [完了]をクリックする。

   本装置が再起動します。

6. 再起動後、システムにログオンする。

7. 次の「デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ」を参照して、ネットワークドライバの詳細設定をする。

8. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、ドライバをインストールする。

9. 43ページを参照して障害処理のためのセットアップをする。

10. 出荷時にインストール済みのソフトウェアの設定およびその確認をする。

    インストール済みのソフトウェアはお客様が購入時に指定したものがインストールされています。例として次のようなソフトウェアがあります。

    - ESMPRO/ServerAgent
    - エクスプレス通報サービス*
    - Power Cosole Plus*
    - ESMPRO/UPSController(本ソフトウェアを購入された場合のみ)*
    - PowerChute *plus*(本ソフトウェアを購入された場合のみ)*

    上記のソフトウェアで「*」印のあるものは、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定または確認をしなければならないソフトウェアを示しています。「ソフトウェア編」の「本装置用バンドルソフトウェア」を参照して使用環境に合った状態に設定してください。

11. 48ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でカスタムインストールで購入された製品での初めてのセットアップは終了です。再セットアップをする際は「マニュアルセットアップ」を使用してください。「マニュアルセットアップ」は、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Server 2003, Standard x64 Edition/Microsoft Windows Server 2003, Enterprise x64 Editionインストレーションサプリメントガイド」を参照してください。

デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ

オプションのデバイスドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添付の説明書を参照してください。

PROSet

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、サーバに耐障害性に優れた環境を提供し、サーバスイッチ間のスループットを向上させる ことができます。
このような機能を利用する場合は、PROSetが必要になります。PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

1. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
2. エクスプローラを起動する。

   <標準のスタートメニューモードの手順>

   スタートメニューから[エクスプローラ]をクリックする。

   <クラシックスタートメニューモードの手順>

   スタートメニューから[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。
3. 「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K3AMD¥NS1¥PROSET¥WS03_32E」ディレクトリ内の「DXSETUP.EXE」アイコンをダブルクリックする。

   [Intel(R) PROSet - Installshield ウィザード]が起動します。
4. [次へ]をクリックする。
5. [同意する]をクリックする。
6. デフォルトのままで、[次へ]をクリックする。
7. [インストール]をクリックする。

   [InstallShield ウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されます。
8. [閉じる]をクリックする。
9. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出す。
10. システムを再起動させる。

ネットワークドライバ

標準装置の2つのネークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度とDuplexモードの設定が必要です。

[PROSetがインストールされていない場合]

1. LAN1/2（1000Base-T）用の「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスを開く。

   <標準のスタートメニューモードの手順>

   ① スタートメニューから[コントロールパネル] → [ネットワーク接続] → [ローカルエリア接続]（Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection）または（Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2）をクリックする。

   [ローカル エリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

   ② [プロパティ]をクリックする。

   <クラシックスタートメニューモードの手順>

   ① スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。

   ② [ローカルエリア接続]アイコン（Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection）または（Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2）を右クリックし、ショートカットメニューから[プロパティ]をクリックする。

2. [構成]をクリックする。

   ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。

3. [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をハブの設定値と同じ値に設定する。

4. ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスの[OK]を クリックする。

   以上で完了です。

[PROSetがインストールされている場合]

1. 「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスを開く。

   <標準のスタートメニューモードの手順>

   ① スタートメニューから[コントロールパネル] → [ネットワーク接続] → [ローカルエリア接続]（Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection）または（Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2）をクリックする。

   [ローカル エリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

   ② [プロパティ]をクリックする。

   <クラシックスタートメニューモードの手順>

   ① スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。

   ② [ローカルエリア接続]アイコン（Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection）または（Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2）を右クリックし、ショートカットメニューから[プロパティ]をクリックする。

2. [構成]をクリックする。

   [Intel PROSet]ダイアログボックスが表示されます。

3. [リンク]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をハブの設定値と同じ値に設定する。

4. [Intel PROSet]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

   以上で完了です。

オプションのネットワークボードのドライバ

オプションのネットワークボード(N8104-112/103/111/86/113)を使用する場合は、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているドライバをインストールしてください。

「N8104-112/103/113」の場合

「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K3AMD¥NS1¥PRO1000¥WS03_32E」

「N8104-111/86」の場合

「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K3AMD¥NS1¥PRO100¥WS03_32E」

インストール手順が不明な場合は、インストレーションサプリメントガイドのネットワークドライバのインストール手順を参照してください。

「N8104-114」のネットワークボードを使用する場合は、添付されているCDかFDに格納されているドライバーを使用してください。
なお、インストール手順が不明な場合は、添付されているネットワークドライバのインストール手順を参照してください。

アダプタフォルトトレランス(AFT)/アダプティブロードバランシング(ALB)のセットアップ

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合、自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させるものです。また、アダプティブロードバランシング(ALB)とは複数のアダプタでグループを作り、サーバから送信パケットをグループすべてのアダプタから行うことにより、スループットを向上させるものです。この機能はAFT機能を含んでいます。
AFT/ALB機能を使用する場合は、以下の手順に従ってセットアップしてください。

1. デバイスマネージャより、ネットワークアダプタのプロパティを開く。
2. チーム化のタグを選択し、「その他のアダプタとチーム化する(T)」にチェックを入れ、[新規チーム]をクリックする。
3. チームの名前を入力後、[次へ]をクリックする。
4. チームに含めるアダプタをチェックし、[次へ]をクリックする。
5. チームモードの選択で、「アダプタフォルトトレランス」、「アダプティブロードバランシング」のいずれかを選択し、[次へ]をクリックする。
6. [完了]をクリックする。
7. デバイスマネージャより、上記で設定したチーム名のデバイスのプロパティを開く。
   「設定」のタグを選択し、[チームの編集]をクリックする。
8. チーム内のアダプタで、プライマリに設定する場合、ドライバを選択し、「プライマリの設定」をクリックする。

   チーム内のアダプタで、セカンダリに設定する場合、ドライバを選択し、「セカンダリの設定(S)」をクリックしてください。
   両方の設定が終了した場合、[OK]をクリックして画面を閉じてください。

9. 「スイッチのテスト」をクリック後、スイッチのテスト画面が表示されたら、「テストの実行」をクリックして実行する。

   実行結果、問題なしのメッセージが表示されれば、テスト完了です。
   AFT/ALBのセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。

アダプタフォルトトレランス(AFT)のグループとして指定するアダプタは、同一ハブ、異なるハブのどちらの接続でも使用できますが、異なるハブに接続する場合は、すべて同一LAN(同一セグメント)上に存在する必要があるため、カスケード接続にしてください。
アダプティブロードバランシング(ALB)を使用する場合は、スイッチングハブにのみ接続できます。

グラフィックスアクセラレータドライバ

標準装備のグラフィックスアクセラレータドライバは、システムのアップデート時に自動的にインストールされます。
OSのインストール後にグラフィックスアクセラレータドライバを削除し、再インストールする場合は以下の手順で再インストールしてください。

1. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

2. スタートメニューから[プログラム]、[アクセサリ]の順でポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。

3. 「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K3AMD¥VIDEO」ディレクトリ内の[SETUP.EXE]アイコンをダブルクリックする。

   メッセージに従ってインストール作業を進めてください。途中、「デジタル署名が見つかりません。」というメッセージが表示され た場合は、[はい]をクリックし、インストールを続けてください。

4. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出し、画面の指示に従ってOSを再起動する。

SCSIコントローラ(N8103-75/95/N8190-126)を追加接続する場合

SCSIコントローラ(N8103-75/95/N8190-126)を追加接続する場合は、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされます。特に作業は必要ありません。

ディスクアレイコントローラ(N8103-81)を追加接続する場合

システムにディスクアレイコントローラ(N8103-81)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作しますが、ドライバは自動でインストールされません。 以下の手順でドライバをインストールしてください。

1. ［スタートメニュー］ー［コントロールパネル］ー［管理ツール］ ー［コンピュータの管理］から［デバイスマネージャ］を起動する。
2. デバイスマネージャで不明なデバイスとして登録されているRAIDコントローラをダブルクリックする。
3. ［ドライバの更新］をクリックする。
4. ハードウェアの更新ウィザードが表示されるので、「このデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択し、［次へ］をクリックする。
5. ［フロッピーディスクドライブ］チェックボックスをチェックし、その他のチェックボックスのチェックを外し、フロッピーディスクドライブに「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をセットして、［次へ］をクリックする。
6. ［次へ］をクリックする。
7. ［完了］をクリックする。

   以上でドライバのインストールは完了です。画面の指示に従ってシステムを再起動してください。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたときに障害からより早く、確実に復旧できるようセットアップをしてください。詳細な手順については43ページをご覧ください。

Windows Server 2003のセットアップ

ハードウェアのセットアップを完了してから、Windows Server 2003やシステムのセットアップをします。再インストールの際にも参照してください。

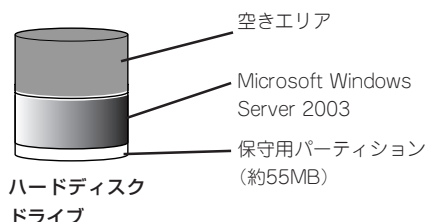
カスタムインストールモデルのセットアップ

BTO(工場組み込み出荷)にて「カスタムインストール」を指定して購入された本装置のハードディスクドライブは、お客様がすぐに使えるようにパーティションの設定から、OS、管理用ソフトウェアなどがすべてインストールされています。

ここで説明する手順は、「カスタムインストール」を指定して購入された本装置で初めて電源をONにするときのセットアップの方法について説明しています。再セットアップをする場合や、その他の出荷状態のセットアップをする場合は、「シームレスセットアップ」や「応用セットアップ」を参照してください。

セットアップをはじめる前に　－ 購入時の状態について －

セットアップを始める前に次の点について確認してください。

本装置のハードウェア構成(ハードディスクドライブのパーティションサイズも含む)やハードディスクドライブにインストールされているソフトウェアの構成は、購入前のお客様によるオーダーによって異なります。
右図は、標準的な本装置のハードディスクドライブの構成について図解しています。

セットアップの手順

次の手順で本装置を起動して、セットアップをします。

1. 周辺装置、本装置の順に電源をONにし、そのままWindowsを起動する。

   [Windows Server 2003セットアップ]画面が表示されます。

2. [次へ]をクリックする。

   [使用許諾契約]画面が表示されます。

3. [同意します]にチェックをして、[次へ]をクリックする。

   以降、使用者名などの設定画面が次々と表示されます。

4. 画面の指示に従って必要な設定をする。

   セットアップの終了を知らせる画面が表示されます。

5. ［完了］をクリックする。

   本装置が再起動します。

6. 再起動後、システムにログオンする。

7. 36ページの手順19以降を参照して、ネットワークの詳細設定をする。

8. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、ドライバをインストールする。

9. 43ページを参照して障害処理のためのセットアップをする。

10. 出荷時にインストール済みのソフトウェアの設定およびその確認をする。

    インストール済みのソフトウェアはお客様が購入時に指定したものがインストールされています。例として次のようなソフトウェアがあります。

    - ESMPRO/ServerAgent
    - エクスプレス通報サービス*
    - Power Cosole Plus*
    - ESMPRO/UPSController（本ソフトウェアを購入された場合のみ）*
    - PowerChute *plus*（本ソフトウェアを購入された場合のみ）*

    上記のソフトウェアで「*」印のあるものは、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定または確認をしなければならないソフトウェアを示しています。「ソフトウェア編」の「本装置用バンドルソフトウェア」を参照して使用環境に合った状態に設定してください。

11. 48ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でカスタムインストールで購入された本装置での初めてのセットアップは終了です。再セットアップをする際は「シームレスセットアップ」を使用してください。

シームレスセットアップ

EXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」機能を使ってセットアップします。

「シームレスセットアップ」は、RAIDの設定から、OS（Windows Server 2003）、各種ユーティリティのインストールまでを 切れ目なく（シームレスで）セットアップできる方法です。

ハードディスクドライブを購入時の状態と異なるパーティション構成で使用する場合や、OSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用してください。煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。

- **N8103-81 ディスクアレイコントローラ(2ch)に接続したハードディスクドライブにはシームレスセットアップできません。「インストレーションサプリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセットアップを実施してください。**
- **Windows Server 2003 x64 Editions では、シームレスセットアップを使用できません。再セットアップする場合は、「Microsoft Windows Server 2003, Standard x64 Edition/Microsoft Windows Server 2003, Enterprise x64 Editionインストレーションサプリメントガイド」を参照し、「マニュアルセットアップ」を使用してください。**

チェック

本装置に添付のEXPRESSBUILDERに対応していないディスクアレイコントローラやSCSIボードなどの大容量記憶装置コントローラを搭載し、システムディスクとして使用するハードディスクドライブを接続している場合は、後述の「応用セットアップ」も併せて参照してください。

- シームレスセットアップでは、あらかじめ作成したパラメータファイルを使用したり、セットアップ中に設定したパラメータをパラメータファイルとしてフロッピーディスク（別途1.44MBフォーマット済み空きフロッピーディスクをご用意ください）に保存することができます。
- パラメータファイルは、EXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic(R)」を使って事前に作成しておくことができます。ExpressPicnicを使ったパラメータファイルの作成方法については、308ページを参照してください。
- シームレスセットアップでは、「保守用パーティション」と呼ばれる 約55MBの保守用の領域をハードディスクドライブの先頭に確保します。保守用パーティションは保守時に必要な各種ユーティリティが格納されています。作成された保守用パーティションは削除しないでください。
- セットアップパラメータFDはお客様でご用意ください。

OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

本装置がサポートしているOSについて

本装置がサポートしているOSは次のとおりです。

- Microsoft® Windows Server™ 2003 Standard Edition 日本語版(以降、「Windows Server 2003」と呼ぶ)
- Microsoft® Windows Server™ 2003 Enterprise Edition 日本語版(以降、「Windows Server 2003」と呼ぶ)

その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

Windows Server 2003 x64 Editions では、シームレスセットアップを使用できません。再セットアップする場合は、「Microsoft Windows Server 2003, Standard x64 Edition/Microsoft Windows Server 2003, Enterprise x64 Editionインストレーションサプリメントガイド」を参照し、「マニュアルセットアップ」を使用してください。

BIOSの設定について

Windows Server 2003をインストールする前にハードウェアのBIOS設定などを確認してください。187ページを参照して設定してください。

Windows Server 2003について

Windows Server 2003は、シームレスセットアップでインストールできます。ただし、次の点について注意してください。

- **インストールを始める前にオプションの増設や本装置のハードウェアのセットアップ(BIOSやオプションボードの設定)をすべて完了させてください。(後述の場合を除く)。**
- **弊社が提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明書が添付されていますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照してください。**
- **シームレスセットアップを完了した後に43ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。**

ミラー化されているボリュームへの再インストールについて

[ディスクの管理]を使用してミラー化されているボリュームに再インストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除および削除は[コンピュータの管理]内の[ディスクの管理]から行えます。

MO装置の接続について

Windows Server 2003をインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。ファイルシステムが正しく変換されなかった場合は、MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

DAT等のメディアについて

シームレスセットアップでは、DAT等のインストールに不要なメディアはセットしないでください。

ハードディスクドライブの接続について

OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。また、OSをインストールするハードディスクドライブに論理ドライブを複数作成している場合は、「論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順」(51ページ)を参照してください。

データディスク用として N8103-81ボードを接続する場合は、ディスクアレイコントローラのコンフィグレーション情報をクリアしてからシームレスセットアップを開始してください。コンフィグレーション情報のクリア手順についてはN8103-81ボードに添付のマニュアルを参照してください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションのサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ+ ダンプファイルサイズ + アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ	＝2900MB (Windows Server 2003(サービスパック含まない) のみ) 3500MB (Windows Server 2003 with ServicePack 1) 4400MB (Windows Server 2003 ＋ サービスパック CD-ROM)
ページングファイルサイズ(推奨)	＝ 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ	＝ 搭載メモリサイズ ＋ 12MB
アプリケーションサイズ	＝ 任意

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズ×1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。
- 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は、「2048MB+12MB」です。
- その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、パーティションサイズは、前述の計算方法から

2900MB ＋（512MB × 1.5）＋ 512MB ＋ 12MB ＋ アプリケーションサイズ
＝ 4192MB ＋ アプリケーションサイズ

となります。
システムをインストールするパーティションサイズが「インストー ルに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを 大きくするか、ディスクを増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てることで解決できます。

1. 「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」を設定する。
2. 「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報（ダンプファイルサイズ分）を別のディスクに書き込むように設定する。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ ＋ ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブへの再インストールについて

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したままでの再インストールはできません。
既存のパーティションを残したい場合は、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition/Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Editionインストレーションサプリメントガイド」を参照して再インストールしてください。
インストレーションサプリメントガイドにもダイナミックディスクへのインストールに関する注意事項が記載されています。

ディスク構成について（「EISA構成」と表示されている領域について）

ディスク領域に「EISA構成」と表示された領域が存在する場合があります。構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。

Service Packの適用について

Express5800シリーズでは、Service Packを適用することができます。本装置に添付されているService Pack以降のService Packを使用する場合は、下記サイトより詳細情報を確かめた上で使用してください。

［NEC 8番街］ http://nec8.com/

セットアップの流れ

シームレスセットアップの流れを図に示します。

セットアップの手順

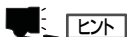
シームレスセットアップでは、ウィザード形式により各パラメータを設定していきます。このとき、各パラメータを一つのファイル(パラメータファイル)としてフロッピーディスクへ保存することも可能です。

パラメータファイルを使ってセットアップするときは、ファイル保存用として1.44MBフォーマット済みの空きフロッピーディスクが1枚必要となります。あらかじめ、お客様でフロッピーディスクをご用意ください。
再インストールのときは、保存しておいたパラメータファイルを読み込ませることで、ウィザードによるパラメータ入力を省略することができます。
また、シームレスセットアップの中で、ディスクアレイコントローラなどのオプションに添付されたドライバFD(「大容量記憶装置用OEM-FD」)を個別に適用する場合は、パラメータファイルの設定も必要になります。このときも空きフロッピーディスクをご用意ください。

重要

- **システムの構成を変更した場合は「システムのアップデート」を行ってください。**
- **Windows Server 2003の起動後にネットワークアダプタなどのドライバの変更、または追加する場合は、オンラインドキュメントの「Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition/Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Editionインストレーションサプリメントガイド」を参照してください。**

1. 周辺装置、本装置の順に電源をONにする。

   ヒント

   - OSをインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールすに失敗することがあります。失敗した場合は、MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。
   - OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。
   - OSをインストールするハードディスクドライブに論理ドライブを複数作成している場合は、「論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順」(51ページ)を参照してください。

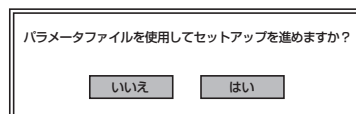
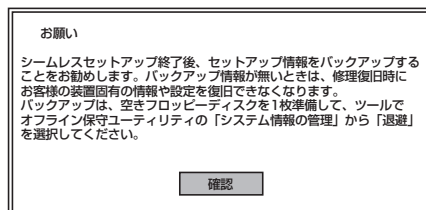
2. 本装置のCD-ROMドライブに「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。

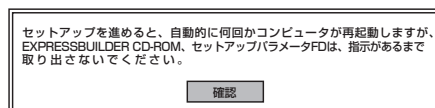
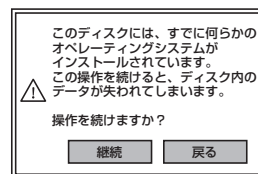
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONして本装置を再起動する。

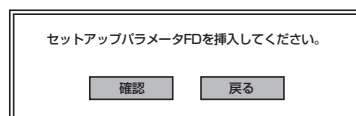
   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

4. [シームレスセットアップ]をクリックする。

5. 「パラメータファイルを使用してセットアップを進めますか？」というメッセージが表示されます。

パラメータファイルを使用する場合は「はい」を、使用しない場合は「いいえ」を選択してください。

6. 「お願い」が表示されますので、表示内容をよく読んでから「確認」をクリックしてください。

7. シームレスセットアップでの注意事項が表示されます。

表示内容をよく読んでから「確認」をクリックしてください。

ディスクになんらかのOSがインストールされている場合、インストールを 続行するかを確認するメッセージが表示されます。セットアップを続けるには「続行」を選択してください。

8. パラメータファイルを使用する場合はセットアップパラメータFDが要求されます。

フロッピーディスクをセットして「確認」を選択してください。
パラメータファイルを使用しない場合はこのメッセージは表示されません。手順9へ進んでください。

ここでセットしたフロッピーディスクは指示があるまで取り出さないでください。

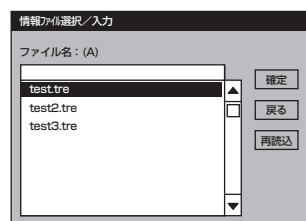
[既存のパラメータファイルを使用する場合]

セットしたフロッピーディスク内のパラメータファイルの一覧が表示されます。

① インストールに使用するパラメータファイルを選択し、[確定]をクリックする。

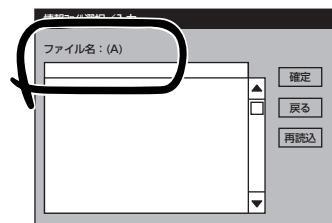
確認のダイアログボックスが表れます。

② パラメータを確認する場合は[確認]を、確認せずにそのままインストールする場合は、[スキップ]をクリックする。

[確認]をクリック→手順9へ進む
[ｽｷｯﾌﾟ]をクリック→手順10へ進む

[空きフロッピーディスクをセットした場合]

① [ファイル名:(A)]の下にあるボックスをクリックするか、<A>キーを押す。

入力ボックスが表示されます。

② ファイル名を入力し、[確定]をクリックする。

9. ディスクアレイコントローラのパラメータを設定する。

[アレイディスクの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[終了]をクリックしてください。

なお、1台のハードディスクドライブにインストールする場合はRAID0を選択してください。

設定が終了すると、自動的にRAIDの構築、保守用パーティションの作成および各種ユーティリティのインストールが実行されます。

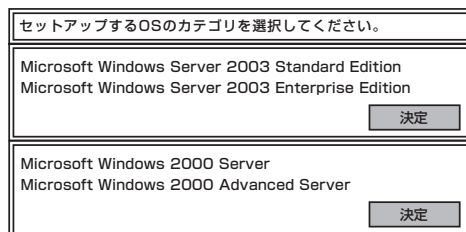
[アレイディスクの設定] ディスクアレイコントローラ
アレイディスクの設定　する
RAIDの作成　既存RAIDを使用する
接続ディスクのトータル数　...
パックを構成するディスク数　...
パックを構成するRAID　...
ライトモードの設定　...
ライトモードの種類　...
再読込　終了　ヘルプ

10. インストールするオペレーティングシステムを選択する。

リストボックスから[Windows]を選択します。

11. セットアップするOSのカテゴリを選択する。

既存のパラメータファイルを使用し、手順8でスキップを選択した場合、このメッセージは表示されません。手順13へ進んでください。

Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition
Micorsoft Windows Server 2003 Enterprise Editionの[決定]を選択します。

12. 次に、[基本情報]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから［次へ]をクリックしてください(画面中の「対象マシン」は機種によって表示が異なります。)

以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[ﾍﾙﾌﾟ]をクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。

<表示例>

重要

- OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズで確保してください。(28ページ参照)
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティション(保守用パーティションを除く)の情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、保守用パーティションが用意されている場合に情報が削除されるパーティションを示しています。

第1パーティション <保守用パーティション>	第2パーティション	第3パーティション	第4パーティション
保持	削除	保持	保持

- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません(29ページ参照)。「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択しないでください。
- 「パーティション」に4095MB以外を指定した場合はNTFSへのコンバートが必要です。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択したとき、流用するパーティション以外(保守領域を除く)にパーティションが存在しなかった場合、そのディスクの最大領域を確保してWindows Server 2003をインストールします。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- ここでは日本語の入力はできません。使用者名と会社名を日本語で入力したい場合は、ログオン後に入力画面がポップアップされますので、その時に再入力し、設定してください。ここでは、仮の名前を入力してください。

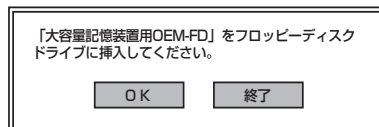
ヒント

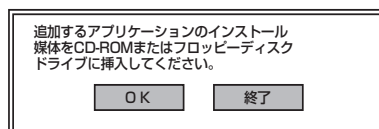
- [基本情報]画面にある[戻る]をクリックすると、セットアップするOSカテゴリ選択画面に戻ります。
- [コンピュータの役割]画面にある[終了]をクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

13. オプションの大容量記憶装置ドライバのモジュールをコピーする。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、大容量記憶装置に添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、メッセージに従って操作してください。

チェック

本機能を使用する場合は、フロッピーディスクドライブが接続されている本装置のみ使用できます。

14. 追加するアプリケーションをインストールする。

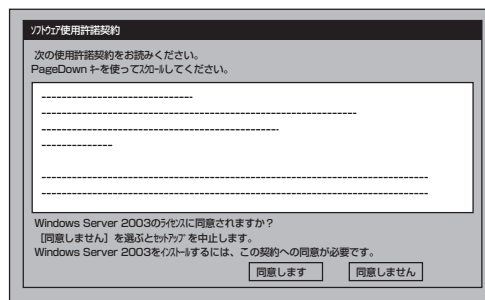
シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されます。

15. メッセージに従って「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出します。この時セットアップパラメータFDを使用している場合は、フロッピーディスクドライブから取り出します。

16. Windows Server 2003 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

[ソフトウェア使用許諾契約]画面が表示されます。

17. よく読んでから、同意する場合は、[同意します]をクリックするか、<F8>キーを押す。同意しない場合は、[同意しません]をクリックするか、<F3>キーを押す。

重要

同意しないと、セットアップは終了し、Windows Server 2003はインストールされません。

Windows Server 2003と指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。

18. 基本情報で「サービスパックの適用」を[する]にした場合は、次の操作をする。

(1) メッセージに従ってWindows Server 2003 CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出す。

(2) メッセージに従ってWindows Server 2003サービスパック1以降のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

重要

ServicePack1が含まれたWindows Server 2003 CD-ROM を使用してインストールをされた場合は、再度ServicePack1を適用する必要はありません。

19. PROSetをインストールする。

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。
PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、本装置に耐障害性に優れた環境を提供し、本装置とスイッチ間のスループットを向上させることができます。
このような機能を利用する場合は、PROSetが必要になります。
PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

① 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

② エクスプローラを起動する。

<標準のスタートメニューモードの手順>

スタートメニューから[エクスプローラ]をクリックする。

<クラシックスタートメニューモードの手順>

スタートメニューから[すべてのプログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。

③ 「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥DOTNET¥BC5¥PROSET¥WS03XP32」ディレクトリ内の「PROSET.EXE」アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R) PROSet - Installshield ウィザード]が起動します。

④ [次へ]をクリックする。

⑤ [使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]をクリックする。

⑥ [標準]を選択し、[次へ]をクリックする。

⑦ [インストール]をクリックする。

[InstallShield ウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されます。

⑧ [完了]をクリックする。

⑨ システムを再起動する。

20. ネットワークドライバの詳細設定をする。

標準装備の2つのネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度とDuplexモードの設定が必要です。

[PROSetがインストールされていない場合]

① LAN1/2(1000Base-T)用の「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスを開く。

<標準のスタートメニューモードの手順>

(1) スタートメニューから[コントロール パネル]→[ネットワーク接続] →[ローカルエリア接続](Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection)をクリックする。

[ローカル エリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

(2) [プロパティ]をクリックする。

<クラシックスタートメニューモードの手順>

（1） スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。

（2） [ローカル接続]アイコン(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection)を右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]をクリックする。

② [構成]をクリックする。

ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。

③ [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をHUBの設定値と同じ値に設定する。

④ ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

[PROSetがインストールされている場合]

<標準のスタートメニューモードの手順>

スタートメニューから[コントロールパネル]→[Intel PROSet]をクリックする。

<クラシックスタートメニューモードの手順>

（1） スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]をクリックする。

（2） [Intel PROSet]アイコンをダブルクリックする。

① 続けて、リスト中の[Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection]をクリックして選択する。

② [速度]タブをクリックし、リンク速度とデュプレックス設定をHUBの設定と 同じ値に設定する。

③ [Intel PROSet]ダイアログボックスの[適用]をクリックし、[OK]をクリックする。

以上で完了です。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワーク接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

ヒント

サービスの追加で[ネットワークモニタ] を追加することをお勧めします。[ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ] をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム（またはパケット）を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、この後の「障害処理のためのセットアップ」を参照してください。

21. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。

22. 43ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップをする。

23. 48ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

グラフィックスアクセラレータドライバ

標準装備のグラフィックスアクセラレータドライバは、シームレスインストールおよびシステムのアップデート時に自動的にインストールされます。

OSのインストール後にグラフィックスアクセラレータドライバを削除し、再インストールする必要がある場合は以下の手順で再インストールしてください。

1. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットし、スタートメニューの[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。
2. "<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥DOTNET¥VIDEO"ディレクトリ内の[SETUP.EXE]アイコンをダブルクリックする。
3. ドライバのインストールが開始されます。

   メッセージに従って作業を進めてください。

   途中、"デジタル署名が見つかりませんでした。..."とのメッセージが表示される場合は、「はい」をクリックしてインストールを続けてください。
4. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROM をCD-ROMドライブから取り出し、画面の指示に従ってOSを再起動する。

オプションのネットワークボード(N8104-112/103/111/86/113)のドライバ

オプションのネットワークボード(N8104-112/103/111/86/113)を使用する場合は、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているドライバをインストールしてください。

「N8104-112/103/113」の場合

「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥DOTNET¥BC5¥PRO1000¥WS03XP32」

「N8104-111/86」の場合

「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥DOTNET¥BC5¥PRO100¥WS03XP32」

インストール手順が不明な場合は、インストレーションサプリメントガイドのネットワークドライバのインストール手順を参照してください。

「N8104-114」のネットワークボードを使用する場合は、添付されているCDかFDに格納されているドライバを使用してください。
なお、インストール手順が不明な場合は、添付されているネットワークドライバのインストール手順を参照してください。

アダプタ フォルト トレランス(AFT)/アダプティブ ロード バランシング(ALB)のセットアップ

アダプタ フォルト トレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合、自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させるものです。また、アダプティブ ロード バランシング(ALB)とは複数のアダプタでグループを作り、サーバから送信パケットをグループすべてのアダプタから行うことにより、スループットを向上させるものです。この機能はAFT機能を含んでいます。
AFT/ALB機能を使用する場合は、以下の手順に従ってセットアップしてください。

1. ［コントロールパネル］ダイアログボックスで、［有線用Intel(R) PROSet］アイコンをダブルクリックする。

   ［有線ネットワーク用Intel(R) PROSet］ダイアログボックスが表示されます。

2. リスト中の「ドライバ名」にマウスポインタを合わせ、右クリックする。

   メニューが表示されます。

3. ［チームに追加］を選択し、［新規チームを作成］をクリックする。

   ［チーム化ウィザード］ダイアログボックスが表示されます。

4. 「アダプタ フォルト トレランス」または「アダプティブ ロード バランシング」を選択して［次へ］をクリックする。

5. ［次へ］をクリックする。

6. チームにするアダプタをチェックして［次へ］をクリックする。

7. ［完了］をクリックする。

   ［有線ネットワーク用Intel(R) PROSet］ダイアログボックスに戻ります。

8. ［適用］をクリックし、［OK］をクリックする。

9. システムを再起動させる。

重要

- **AFT/ALBのセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。**
- **アダプタ フォルト トレランス(AFT)のグループとして指定するアダプタは、同一ハブ、異なるハブのどちらの接続でも使用できますが、異なるハブに接続する場合は、すべて同一LAN(同一セグメント)上に存在する必要があるため、カスケード接続にしてください。**
- **アダプティブ ロード バランシング(ALB)を使用する場合は、スイッチングハブにのみ接続できます。**

SCSIコントローラのドライバ

SCSIコントローラ(N8103-65/75)を追加接続する場合

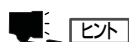
システムにSCSIコントローラ(N8103-65/75)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作しますが、ドライバは自動でインストールされません。以下の手順でインストールしてください。

1. [スタート]メニューから[コントロールパネル]ー[管理ツール]ー[コンピュータの管理]から[デバイスマネージャ]を起動する。
2. デバイスマネージャで不明なデバイスとして登録されているSCSIコントローラをダブルクリックする。
3. [ドライバの更新]をクリックする。
4. ハードウェアの更新ウィザードが表示されるので、「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」を選択し、[次へ]をクリックする。
5. 「検索しないで、インストールするドライバを選択する」を選択し、[次へ]をクリックする。
6. [ディスク使用(H)]をクリックする。

   フロッピーディスクドライブに「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をセットして、製造元のファイルのコピー元に「a:¥」と入力し、[OK]をクリックします。

   「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」は「サポートディスクとは？」(50ページ)を参照して作成してください。
7. 以下のドライバを選択し、[次へ]をクリックする。

   N8103-65 使用時：[INITIO INI-A10XU2W PCI SCSI Controller]
   N8103-75 使用時：[Adaptec SCSI Card 29320ALP -Ultra320 SCSI]

   ヒント

   Windowsロゴテストに合格していない旨のポップアップが出る場合がありますが、システムの動作上問題ありません。[OK]をクリックし処理を継続してください。

以上でドライバのインストールは完了です。画面の指示に従ってシステムを再起動してください。

SCSIコントローラ(N8103-95/N8190-126)を追加接続する場合

システムにSCSIコントローラ(N8103-95/N8190-126)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされますが、その後、ドライバのアップデートが必要です。

システムのアップデートを実施する事でドライバが適用されます。

ディスクアレイコントローラ(N8103-81)を追加接続する場合

システムにディスクアレイコントローラ(N8103-81)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作しますが、ドライバは自動でインストールされません。以下の手順でインストールしてください。

1. [スタートメニュー]ー[コントロールパネル]ー[管理ツール]ー[コンピュータの管理]から[デバイスマネージャ]を起動する。
2. デバイスマネージャで不明なデバイスとして登録されているRAIDコントローラをダブルクリックする。
3. [ドライバの更新]をクリックする。
4. ハードウェアの更新ウィザードが表示されるので、「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」を選択し、[次へ]をクリックする。
5. 「次の場所で最適のドライバを検索する」を選択し、[リムーバブルメディア(フロッピー、CD-ROMなど)を検索]チェックボックスをチェックする。
6. フロッピーディスクドライブに「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をセットして、[次へ]をクリックする。

   「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」は「サポートディスクとは?」(50ページ)を参照して作成してください。
7. [完了]をクリックする。

以上でドライバのインストールは完了です。
画面の指示に従ってシステムを再起動してください。

Boot.iniファイルで使用可能なスイッチオプションについて

Boot.iniファイルを編集することで、様々なスイッチオプションを使用することができます。使用可能なオプションについては、以下を参照してください。

- **サポート技術情報 - KB833721**
  Windows XPおよびWindows Server 2003のBoot.iniファイルで使用可能なスイッチ オプション

  4GBを超えるメモリを搭載できる本装置では /PAE オプションの設定を行うことで4GBを超えるメモリを使用できるようになります。/PAE オプションは、サポートされている製品が限定されています。以下のマイクロソフトサポート技術情報を参照して確認して下さい。

- **サポート技術情報 - KB291988**
  4GB RAM チューニング機能と物理アドレス拡張のスイッチの説明

  以下に編集例を示します。

  (1) 「スタート」メニューから[設定] をポイントして、[コントロールパネル]をクリックします。

  (2) 「コントロール パネル」から、[システム]アイコンをダブルクリックします。「システムのプロパティ」画面が表示されます。

  (3) [詳細設定]タブから「起動と回復」にある[設定]をクリックします。

  (4) 「起動と回復」画面にある「起動システム」の[編集]をクリックし、「Boot.ini」を開きます。

  (5) 「Boot.ini」ファイルの[operating systems]に"/PAE"を追加し、上書き保存してください。

  <Boot.ini ファイルの例>

```
[boot loader]
timeout=30
default=multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(2)¥WINDOWS
[operating systems]
multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(2)¥WINDOWS="Windows Server 2003,
Standard" /fastdetect
multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(2)¥WINDOWS="Windows Server 2003,
Standard, PAE" /fastdetect /PAE
C:¥CMDCONS¥BOOTSECT.DAT="Microsoft Windows 回復コンソール" /
cmdcons
```

  以上で Boot.iniへの編集は終了です。

「起動/回復」画面にある「既定のオペレーティングシステム」で、選択したエントリから自動的に起動するように設定することができます。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

本装置内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

重要

メモリダンプの注意

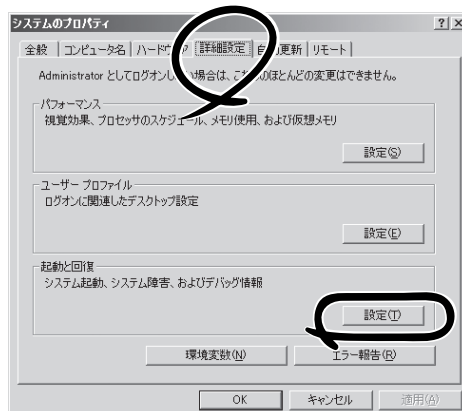
- **メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。**
- **ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。**

次の手順に従って設定します。

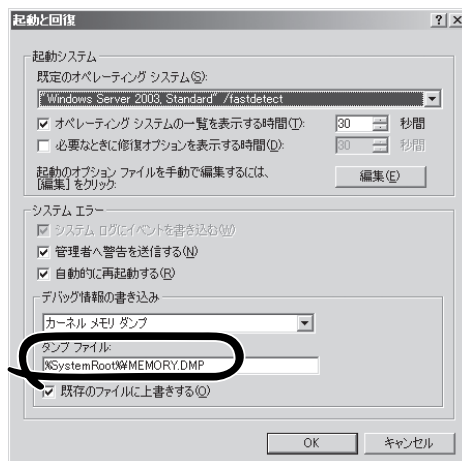
1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選択し、[システム]をクリックする。

   [システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

2. [詳細設定]タブをクリックする。

3. [起動と回復]ボックスの[設定]をクリックする。

4. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

   <Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

   D:¥MEMORY.DMP

重要

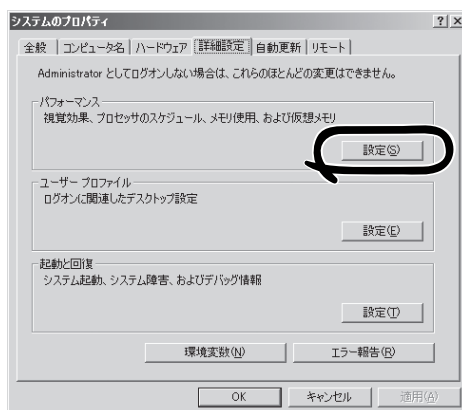
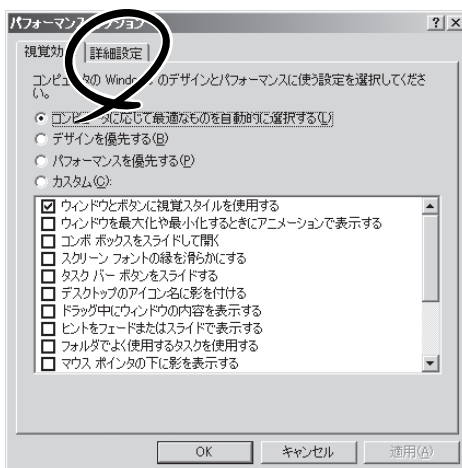
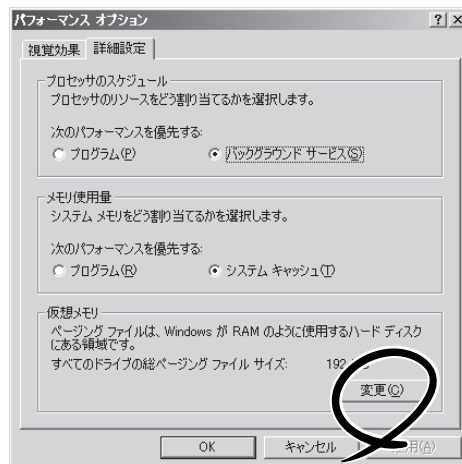
Windows Server 2003 x64 Editionsの場合

- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+1MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+1MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

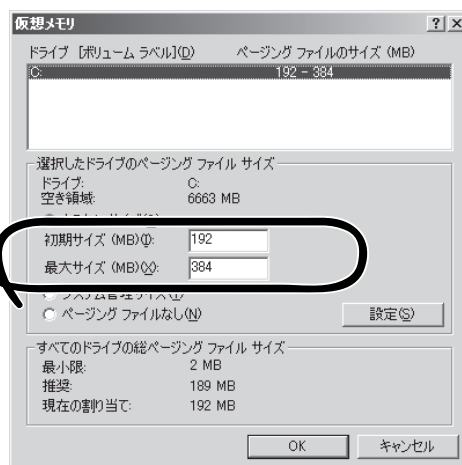
Windows Server 2003の場合

- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+12MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

5. [パフォーマンス]ボックスの[設定]をクリックする。

   [パフォーマンスオプション]ウィンドウが表示されます。

6. [パフォーマンスオプション]ウィンドウの[詳細設定]タブをクリックする。

7. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリックする。

8. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を推奨値以上に変更し、[設定]をクリックする。

重要

- **上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。**
- **「推奨値」については、「作成するパーティションサイズについて(28ページ)」を参照してください。**
- **メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。**
- **障害発生時に備えて、事前にダンプスイッチを押して、正常にダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。**

9. [OK]をクリックする。

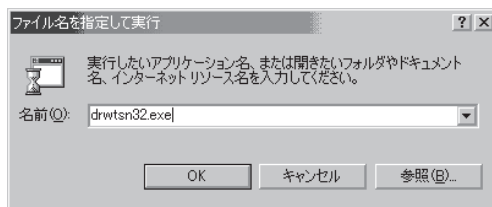
   設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

ワトソン博士の設定

Windowsワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出すると本装置を診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。

   [Windowsワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。

3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。

   「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。

「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。

5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

   □ ダンプシンボルテーブル
   □ すべてのスレッドコンテキストをダンプ
   □ 既存のログファイルに追加
   □ クラッシュダンプファイルの作成

   それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。ネットワークモニタを使用するためには、インストール後、システムの再起動を行う必要がありますので、障害が発生する前にインストールしておくことをお勧めします。

1. スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。

   [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

2. [プログラムの追加と削除]アイコンをダブルクリックする。

   [プログラムの追加と削除]ダイアログボックスが表示されます。

3. [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックする。

   [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。

4. コンポーネントの[管理とモニタ ツール]チェックボックスをオンにして[次へ]をクリックする。

5. ディスクの挿入を求めるメッセージが表示された場合は、Windows Server 2003 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットして[OK]をクリックする。

6. [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスの[完了]をクリックする。

7. [アプリケーションの追加と削除]ダイアログボックスの[閉じる]をクリックする。

8. [コントロールパネル]ダイアログボックスを閉じる。

ネットワークモニタは、スタートメニューから[プログラム]→[管理ツール] をポイントし、[ネットワークモニタ]をクリックすることにより、起動することができます。
操作の説明については、オンラインヘルプを参照してください。

管理ユーティリティのインストール

添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMには、本装置監視用の「ESMPRO/ServerAgent」およびシステム管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。ESMPRO/ServerAgentは、シームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。[スタート]メニューの[プログラム]やコントロールパネルにインストールしたユーティリティのフォルダがあることを確認してください。シームレスセットアップの設定でインストールしなかった場合は、第3編の「ソフトウェア編」を参照して個別にインストールしてください。

ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。

システムのアップデート ～サービスパックの適用～

システムのアップデートは次のような場合に行います。

- システム構成を変更した場合(内蔵オプションの機器を取り付け/取り外しをした場合)
- システムを修復した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合
  (Service Pack関連のExpress5800用差分モジュールを適用したシステムの場合は、再度RURのフロッピーディスクを使用してExpress5800用差分モジュールを適用してください。このときService Packを再適用する必要はありません。)

ServicePack 1が含まれたWindows Server 2003 CD-ROMを使用しインストールをされた場合は、再度Service Pack1を適用する必要はありません。

管理者権限のあるアカウント(Administratorなど)で、システムにログインした後、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを本装置のCD-ROMドライブにセットしてください。
表示された画面「マスターコントロールメニュー」の[ソフトウェアのセットアップ]を左クリックし、メニューから[システムのアップデート]をクリックすると起動します。以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。
システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の本装置固有の情報や設定を復旧(リストア)できなくなります。次の手順に従ってバックアップをとってください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを本体装置のCD-ROMドライブにセットして、再起動する。
   EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。
3. [ツール]ー[オフライン保守ユーティリティ]を選択する。
4. [システム情報の管理]から[退避]を選択する。
   以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

応用セットアップ

システムの環境やインストールしようとするオペレーティングシステムによっては、特殊な手順でセットアップしなければならない場合があります。

シームレスセットアップ未対応の大容量記憶装置コントローラを利用する場合

最新のディスクアレイコントローラなど、本装置に添付のEXPRESSBUILDERに対応していない大容量記憶装置コントローラが接続されたシステムにおいて、OSの再インストールなどをする場合は、次の手順でセットアップしてください。

- BTO(工場組み込み出荷)により、OS組み込み出荷された状態からセットアップを開始する場合には、本操作を行う必要はありません。
- シームレスセットアップに対応しているオプションボードについては「EXPRESSBUILDERがサポートしているオプションボード」(14ページ)を参照してください。

1. セットアップしようとする大容量記憶装置コントローラの説明書を準備する。

   チェック

   本書の内容と大容量記憶装置コントローラの説明書との内容が異なる場合は、大容量記憶装置コントローラの説明書を優先してください。

2. ディスクアレイコントローラの場合は、コントローラの説明書に従ってRAIDの設定を行う。

   RAID設定の不要な大容量記憶装置コントローラの場合は、手順3へ進んでください。

3. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからシステムを起動させる。

4. 以下の設定でシームレスセットアップを実行する。

   - 「パラメータファイルを使用する」に設定する
   - アレイディスクの設定画面が表示された場合は、[既存のRAIDを使う]をチェックする

     ヒント

     コントローラによっては、設定画面が現れないことがあります。

   - [大容量記憶装置用OEM-FDの適用をする]をチェックする

     ヒント

     このオプションをチェックすることで、フロッピーディスクで提供されているドライバを読み込ませて、シームレスセットアップを進めることができます。

5. シームレスセットアップの途中で[大容量記憶装置用ドライバ]をコピーする。

   大容量記憶装置コントローラに添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、以降は画面のメッセージに従って操作してください。

   「大容量記憶装置用OEM-FD」をフロッピーディスクドライブに挿入してください。

   OK　終了

マニュアルセットアップ

Windows Server 2003 x64 Editions の場合

オペレーティングシステムのインストールは、マニュアルセットアップを使用します。マニュアルセットアップでWindows Server 2003 x64 Editionsをインストールする方法については、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Server 2003, Standard x64 Edition/Microsoft Windows Server 2003, Enterprise x64 Editionインストレーションサプリメントガイド」を参照してください。また、あらかじめEXPRESSBUILDERから、「サポートディスク」を作成しておいてください。

Windows Server 2003の場合

本装置へのオペレーティングシステムのインストールは、シームレスセットアップを使用することをお勧めしていますが、特殊なインストールに対応する場合、マニュアルセットアップが必要になることがあります。
シームレスセットアップを使わずにWindows Server 2003をインストールする方法については、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition/Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Editionインストレーションサプリメントガイド」を参照してください。また、あらかじめEXPRESSBUILDERから「サポートディスク」を作成しておいてください。

オプションボードを接続する場合は、オプションボードに添付の説明書も併せて参照してください。

サポートディスクとは？

Windows Server 2003 x64 Editions の場合

「マニュアルセットアップ」では、「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるサポートディスクが必要です。

作成方法については、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Server 2003, Standard x64 Edition/Microsoft Windows Server 2003, Enterprise x64 Editionインストレーションサプリメントガイドを参照してください。

Windows Server 2003の場合

シームレスセットアップを使わずに再セットアップするときの手順「マニュアルセットアップ」では、「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるサポートディスクが必要です。
「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」には、Windows Server 2003のインストールで必要となるRAIDコントローラやSCSIコントローラのドライバなどが含まれています。マニュアルセットアップを始める前に「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を用意してください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを1枚用意する。

2. 周辺装置、本装置の順に電源をONにする。

3. 本装置のCD-ROMドライブに添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。

4. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

5. [ツールメニュー]から[サポートディスクの作成]を選択する。

6. [サポートディスク作成メニュー]から[Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER]を選択する。

7. 画面の指示に従ってフロッピーディスクをセットする。

   「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が作成されます。

   作成した「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」はライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

Windows(Windows 95以降、Windows NT 4.0以降)が動作するコンピュータをお持ちの場合は、Windows上で「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットすると起動する「マスターコントロールメニュー」から Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERを作成することもできます。

論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順

再セットアップをはじめる前に、万一の場合に備えて必ずデータのバックアップを行ってください。

再セットアップ手順

1. 本書および「インストレーションサプリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセットアップを開始する。

2. 次のメッセージが表示されたら、OSをセットアップしたいパーティションを選択する。

   > 次の一覧には、このコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。
   >
   > 上下の方向キーを使って、一覧からパーティションを選択してください。

   重要

   システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字はセットアップ完了後は修正できません。この画面で正しいドライブ文字が割り当てられていることを確認してからセットアップを続行してください。

3. 本書および「インストレーションサプリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセットアップを続行する。

   以上で完了です。

   ヒント

   セットアップ完了後、再セットアップ前とドライブ文字が異なる場合があります。ドライブ文字の修正が必要な場合は次項の「ドライブ文字の修正手順」に 従ってドライブ文字を変更してください

ドライブ文字の修正手順

以下の手順では、システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字は変更できません。ご注意ください。

1. ［スタートメニュー］から［マイコンピュータ］を右クリックし、［管理］を選択して［コンピュータの管理］を起動する。
2. .左側のウィンドウの中から、［ディスクの管理］を選択する。
3. ドライブ文字を変更したいボリュームを選択して右クリックし、［ドライブ文字とパスの変更］を選択する。
4. ［変更］をクリックする。
5. ［次のドライブ文字を割り当てる］をクリックし、割り当てたいドライブ文字を選択する。
6. ［OK］をクリックする。
7. 以下の確認メッセージが表示されたら、［はい］をクリックする。

ボリュームのドライブ文字を変更すると、プログラムが動作しないことがあります。このドライブ文字を変更しますか？

8. ［コンピュータの管理］を終了する。

以上で完了です。

Windows 2000のセットアップ

ハードウェアのセットアップを完了してから、Windows 2000やシステムのセットアップをします。再インストールの際にも参照してください。

シームレスセットアップ

EXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」機能を使ってセットアップします。

「シームレスセットアップ」は、RAIDの設定から、OS(Windows 2000)、各種ユーティリティのインストールまでを切れ目なく(シームレスで)セットアップできる方法です。
ハードディスクドライブを購入時の状態と異なるパーティション構成で使用する場合や、OSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用してください。煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。

N8103-81 ディスクアレイコントローラ(2ch)に接続したハードディスクドライブにはシームレスセットアップできません。「インストレーションサプリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセットアップを実施してください。

本装置に添付のEXPRESSBUILDERに対応していないディスクアレイコントローラやSCSIボードなどの大容量記憶装置コントローラを搭載し、システムディスクとして使用するハードディスクドライブを接続している場合は、後述の「応用セットアップ」も併せて参照してください。

- シームレスセットアップでは、あらかじめ作成したパラメータファイルを使用したり、セットアップ中に設定したパラメータをパラメータファイルとしてフロッピーディスク(別途1.44MBフォーマット済み空きフロッピーディスクをご用意ください)に保存することができます。
- パラメータファイルは、EXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic®」を使って事前に作成しておくことができます。ExpressPicnicを使ったパラメータファイルの作成方法については、308ページを参照してください。
- シームレスセットアップでは、「保守用パーティション」と呼ばれる約55MBの保守用の領域をハードディスクドライブの先頭に確保します。このパーティションを確保したくないときは、マニュアルセットアップ(75ページ参照)でインストールしてください。
- セットアップパラメータFDはお客様でご用意ください。

OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

本装置がサポートしているOSについて

本装置がサポートしているOSは次のとおりです。

- Microsoft® Windows® 2000 Server 日本語版(以降、「Windows 2000」と呼ぶ)
- Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server 日本語版(以降、「Windows 2000」と呼ぶ)

Windows2000をご使用の場合は、「システムのアップデート」(72ページ)または本項の「Servece Packの適用について」をご参照のうえ Servece Pack4 以上を適用してください。その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

BIOSの設定について

Windows 2000をインストールする前にハードウェアのBIOS設定などを確認してください。BIOSの設定には、Windows 2000から採用された新しい機能(プラグ・アンド・プレイやUSBインタフェースへの対応など)に関する設定項目があります。187ページを参照して設定してください。

Windows 2000について

Windows 2000は、シームレスセットアップでインストールできます。ただし、次の点について注意してください。

重要

- **インストールを始める前にオプションの増設や本装置のセットアップ(BIOSやオプションボードの設定)をすべて完了させてください。**
- **弊社が提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明書が添付されていますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照してください。**
- **シームレスセットアップを完了した後に68ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。**

ミラー化されているボリュームへの再インストールについて

[ディスクの管理]を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除および削除は[コンピュータの管理]内の[ディスクの管理]から行えます。

MO装置の接続について

Windows 2000をインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。ファイルシステムが正しく変換されなかった場合は、MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

DAT等のメディアについて

シームレスセットアップでは、DAT等のインストールに不要なメディアはセットしないでください。

ハードディスクドライブの接続について

OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。また、OSをインストールするハードディスクドライブに論理ドライブを複数作成している場合は、「論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順」(76ページ)を参照してください。

データディスク用として N8103-81ボードを接続する場合は、ディスクアレイコントローラのコンフィグレーション情報をクリアしてからシームレスセットアップを開始してください。コンフィグレーション情報のクリア手順についてはN8103-81ボードに添付のマニュアルを参照してください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションのサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ＋ ページングファイルサイズ＋ ダンプファイルサイズ＋ アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ＝ 1000MB
ページングファイルサイズ(推奨)＝ 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ＝ 搭載メモリサイズ ＋ 12MB
アプリケーションサイズ＝ 任意

重要

- **上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。**
- **1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズ×1.5倍のサイズが 4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。**
- **搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は、「2048MB+12MB」です。**
- **その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。**

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、パーティションサイズは、前述の計算方法から

1000MB ＋ (512MB × 1.5) ＋ 512MB ＋ 12MB ＋ アプリケーションサイズ
＝ 2292MB ＋ アプリケーションサイズ

となります。
システムをインストールするパーティションサイズが「インストール に必要なサイズ ＋ ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てることで解決できます。

1. 「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」を設定する。
2. 「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報（ダンプファイルサイズ分）を別のディスクに書き込むように設定する。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない 場合は「インストールに必要なサイズ ＋ ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブへの再インストールについて

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したままでの再インストールはできません。
既存のパーティションを残したい場合は、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows 2000 Server/Microsoft Windows 2000 Advanced Serverインストレーションサプリメントガイド」を参照して再インストールしてください。
インストレーションサプリメントガイドにもダイナミックディスクへのインストールに関する注意事項が記載されています。

ディスク構成について（「MAINTE_P」と表示されている領域について）

ディスク領域に「MAINTE_P」と表示された領域が存在する場合があります。構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。

Service Packの適用について

Express5800シリーズでは、Service Packを適用することができます。本装置に添付されているService Pack以降のService Packを使用する場合は、下記サイトより詳細情報を確かめた上で使用してください。

［NEC 8番街］ **http://nec8.com/**

セットアップの流れ

シームレスセットアップの流れを図に示します。

セットアップの手順

シームレスセットアップでは、ウィザード形式により各パラメータを設定していきます。このとき、各パラメータを一つのファイル（パラメータファイル）としてフロッピーディスクへ保存することも可能です。

パラメータファイルを使ってセットアップするときは、ファイル保存用として1.44MBフォーマット済みの空きフロッピーディスクが1枚必要となります。あらかじめ、お客様でフロッピーディスクをご用意ください。

再インストールのときは、保存しておいたパラメータファイルを読み込ませることで、ウィザードによるパラメータ入力を省略することができます。

また、シームレスセットアップの中で、ディスクアレイコントローラなどのオプションに添付されたドライバFD（「大容量記憶装置用OEM-FD」）を個別に適用する場合は、パラメータファイルの設定も必要になります。このときも空きフロッピーディスクをご用意ください。

重要

- **システムの構成を変更した場合は「システムのアップデート」を行ってください。**
- **Windows 2000の起動後にネットワークアダプタなどのドライバの変更、または追加する場合は、オンラインドキュメントの「Microsoft Windows 2000 Server/ Microsoft Windows 2000 Advanced Serverインストレーションサプリメントガイド」を参照してください。**

1. 周辺装置、本装置の順に電源をONにする。

   ヒント

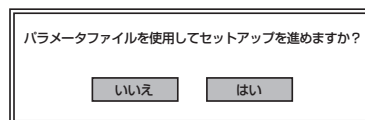
   - OSをインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。失敗した場合は、MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。
   - OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。
   - 論理ドライブを複数作成している場合は、「論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順」（76ページ）を参照してください。

2. 本装置のCD-ROMドライブに「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする（<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONして本装置を再起動する。

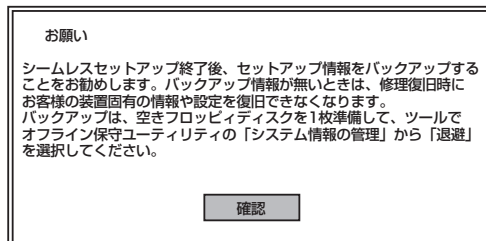
   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

4. ［シームレスセットアップ］をクリックする。

5. 「パラメータファイルを使用してセットアップを進めますか？」というメッセージが表示される。

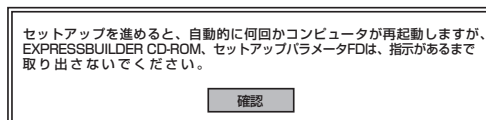
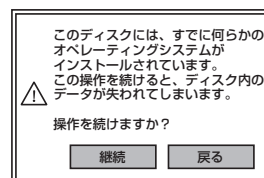
パラメータファイルを使用する場合は[はい]を、使用しない場合は[いいえ]を選択してください。

6. 「お願い」が表示されるので、表示内容をよく読んでから[確認]をクリックする。

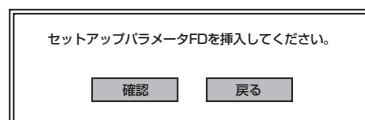
シームレスセットアップ終了後、セットアップ情報をバックアップすることをお勧めします。バックアップ情報が無いときは、修理復旧時にお客様の装置固有の情報や設定を復旧できなくなります。
バックアップは、空きフロッピィディスクを1枚準備して、ツールでオフライン保守ユーティリティの「システム情報の管理」から「退避」を選択してください。

確認

7. シームレスセットアップでの注意事項が表示される。

表示内容をよく読んでから[確認]をクリックしてください。

セットアップを進めると、自動的に何回かコンピュータが再起動しますが、EXPRESSBUILDER CD-ROM、セットアップパラメータFDは、指示があるまで取り出さないでください。

確認

ディスクに何らかのOSがインストールされている場合、インストールを続行するかを確認するメッセージが表示されます。セットアップを続けるには[続行]を選択してください。

8. パラメータファイルを使用する場合はセットアップパラメータFDが要求されるので、フロッピーディスクをセットして[確認]を選択する。

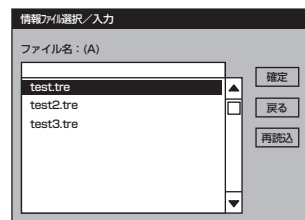
パラメータファイルを使用しない場合は、このメッセージは表示されません。手順9へ進んでください。

ここでセットしたフロッピーディスクは、指示があるまで取り出さないでください。

[既存のパラメータファイルを使用する場合]

セットしたフロッピーディスク内のパラメータファイルの一覧が表示されます。

① インストールに使用するパラメータファイルを選択し、[確定]をクリックする。

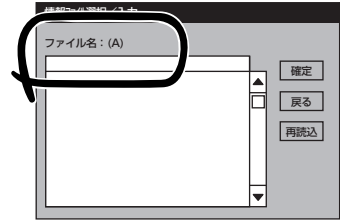
確認のダイアログボックスが表示されます。

② パラメータを確認する場合は［確認］を、確認せずにそのままインストールする場合は、［ｽｷｯﾌﾟ］をクリックする。

［確認］をクリック→手順9へ進む
［ｽｷｯﾌﾟ］をクリック→手順10へ進む

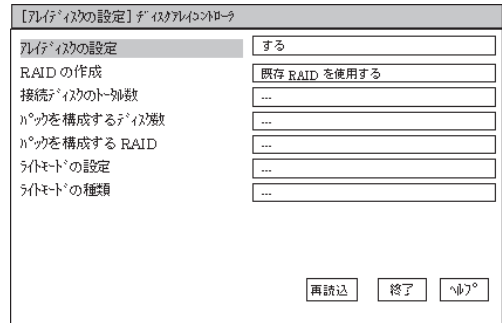
[空きフロッピーディスクをセットした場合]

① [ファイル名:(A)]の下にあるボックスをクリックするか、<A>キーを押す。

入力ボックスが表示されます。

② ファイル名を入力し、[確定]をクリックする。

9. ディスクアレイコントローラのパラメータを設定する。

本装置にRAIDコントローラボードが搭載されている場合は、[アレイディスクの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[終了]をクリックしてください。

設定が終了すると、自動的にRAIDの構築、保守用のパーティションの作成、および各種ユーティリティのインストールが実行されます。

[アレイディスクの設定] ディスクアレイコントローラ

アレイディスクの設定	する
RAID の作成	既存 RAID を使用する
接続ディスクのトータル数	---
パックを構成するディスク数	---
パックを構成する RAID	---
ライトモードの設定	---
ライトモードの種類	---

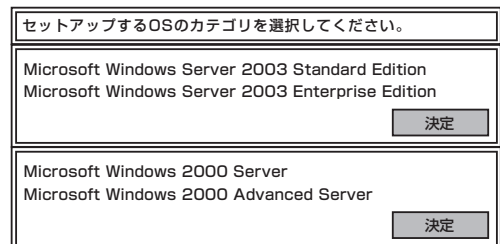
再読込　終了　ヘルプ

10. インストールするオペレーティングシステムを選択する。

リストボックスから[Windows]を選択します。

11. セットアップするOSのカテゴリを選択する。

既存のパラメータファイルを使用し、手順8でスキップを選択した場合、このメッセージは表示されません。手順13へ進んでください。

Microsoft Windows 2000 Server
Micorsoft Windows 2000 Advanced Serverの[決定]を選択します。

12. 次に、[基本情報]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから［次へ］をクリックする。（画面中の「対象マシン」は機種によって表示が異なります。）

以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[ﾍﾙﾌﾟ]をクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。

<表示例>

重要

- **OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズで確保してください。（55ページ参照）**
- **「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティション（保守用パーティションを除く）の情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、保守用パーティションが用意されている場合に情報が削除されるパーティションを示しています。**

第1パーティション <保守用パーティション>	第2パーティション	第3パーティション	第4パーティション
保持	削除	保持	保持

- **ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません（56ページ参照）。「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択しないでください。**
- **「パーティション」に4095MB以外を指定した場合はNTFSへのコンバートが必要です。**
- **「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択したとき、流用するパーティション以外（保守領域を除く）にパーティションが存在しなかった場合、そのディスクの最大領域を確保してWindows 2000をインストールします。**
- **設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。**
- **ここでは日本語の入力はできません。使用者名と会社名を日本語で入力したい場合は、ログオン後に入力画面がポップアップされますので、その時に再入力し、設定してください。ここでは、仮の名前を入力してください。**

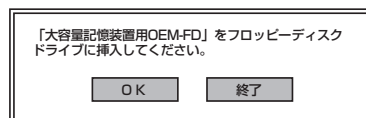
ヒント

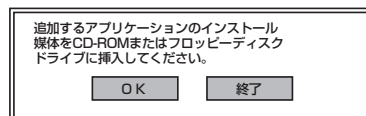
- Windows 2000 CD-ROMとWindows 2000 Service Pack 4 CD-ROMを使用される場合は、[基本情報]画面の[サービスパックの適用]を[する]にしてください。
- [基本情報]画面にある[戻る]をクリックすると、セットアップするOSカテゴリ選択画面に戻ります。
- [コンピュータの役割]画面にある[終了]をクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

13. オプションの大容量記憶装置ドライバのモジュールをコピーする。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、大容量記憶装置に添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、メッセージに従って操作してください。

チェック

本機能を使用する場合は、フロッピーディスクドライブが接続されている本装置のみ使用できます。

14. 追加するアプリケーションをインストールする。

シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されます。

15. メッセージに従って「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出す。

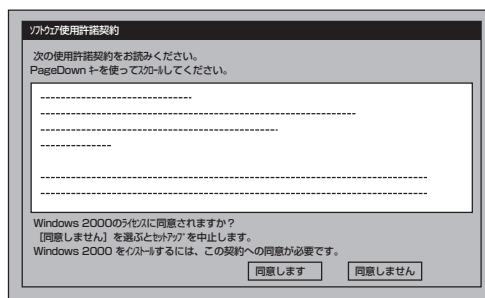
この時セットアップパラメータFDを使用している場合は、フロッピーディスクドライブから取り出します。

16. Windows 2000 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

[ソフトウェア使用許諾契約]画面が表示されます。

17. よく読んでから、同意する場合は、[同意します]をクリックするか、<F8>キーを押す。同意しない場合は、[同意しません]をクリックするか、<F3>キーを押す。

重要

同意しないと、セットアップは終了し、Windows 2000はインストールされません。

18. 基本情報で「サービスパックの適用」を[する]にした場合は、次の操作をする。

① メッセージに従ってWindows 2000 CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出す。

② メッセージに従ってWindows 2000 Service Pack 4以降のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

Windows 2000と指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。

19. PROSetをインストールする。

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。

PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、サーバに耐障害性に優れた環境を提供し、サーバースイッチ間のスループットを向上させることができます。このような機能を利用する場合は、PROSetが必要になります。
PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

① 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

② スタートメニューから[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。

③ 「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K¥BC5¥PROSET¥WIN2K」ディレクトリ内の「PROSET.EXE」アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R) PROSet - InstallShield ウィザード]が起動します。

④ [次へ]をクリックする。

⑤ [使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]をクリックする。

⑥ [標準]を選択し、[次へ]をクリックする。

⑦ [インストール]をクリックする。

[InstallShield ウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されます。

⑧ [完了]をクリックする。

⑨ システムを再起動する。

以上で完了です。

20. ネットワークドライバの詳細設定をする。

[PROSetがインストールされていない場合]

① LAN1/2(1000Base-TX)用の「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスを開く。

スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックしてください。

② [ローカル接続]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]をクリックする。

「ローカル エリア接続のプロパティ」ダイアログが表示されます。

③ [構成]をクリックする。

ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。

④ [詳細設定]タブをクリックし、「リンク速度とデュプレックス」をハブの設定値と同じ値に設定する。

⑤ 「Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connectionのプロパティ」ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

[PROSetがインストールされている場合]

① スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]をクリックする。

② [Intel(R)PROSet]アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R)PROSet]ダイアログボックスが表示されます。

③ リスト中の「Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection」をクリックして選択する。

④ [速度]タブをクリックし、リンク速度とデュプレックス設定をハブの設定と同じ値に設定する。

⑤ [Intel(R)PROSet]ダイアログボックスの[適用]をクリックし、[OK]をクリックする。

以上で完了です。

21. グラフィックスアクセラレータドライバ

標準装備のグラフィックスアクセラレータドライバは、シームレスインストールおよびシステムのアップデート時に自動的にインストールされます。

OSのインストール後にグラフィックスアクセラレータドライバを削除し、再インストールする必要がある場合は以下の手順で再インストールしてください。

① 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットし、スタートメニューの[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。

② "<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K¥VIDEO"ディレクトリ内の[SETUP.EXE]アイコンをダブルクリックする。

ドライバのインストールが開始されます。

メッセージに従って、作業を進めてください。

* 途中、"デジタル署名が見つかりませんでした。..."とのメッセージが表示される場合は、[はい]をクリックして、インストールを続けてください。

③ 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出し、画面の指示に従ってOSを再起動する。

22. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。

23. 68ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップをする。

24. 73ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

オプションのネットワークボードのドライバ

オプションのネットワークボード(N8104-111/112/86/103/113)を使用する場合は、インストレーションサプリメントガイドのネットワークドライバの再インストール手順を参考にし、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているドライバをインストールしてください。

(N8104-86/111)のボード名のドライバ
〔CD-ROMのドライブレター:¥WINNT¥W2K¥BC5¥PRO100¥WIN2K〕

(N8104-112/103/113)のボード名のドライバ
〔CD-ROMのドライブレター:¥WINNT¥W2K¥BC5¥PRO1000¥WIN2K〕

「N8104-114」のネットワークボードを使用する場合は、添付されているCDかFDに格納されているドライバを使用してください。
なお、インストール手順が不明な場合は、添付されているネットワークドライバのインストール手順を参照してください。

SCSIコントローラのドライバ

SCSIコントローラ(N8103-65/75)を追加接続する場合

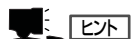
システムにSCSIコントローラ(N8103-65/75)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作しますが、ドライバは自動でインストールされません。
以下の手順でインストールしてください。

1. 〔スタート〕メニューから〔コントロールパネル〕ー〔管理ツール〕ー〔コンピュータの管理〕から〔デバイスマネージャ〕を起動する。
2. デバイスマネージャで不明なデバイスとして登録されているSCSIコントローラをダブルクリックする。
3. 〔ドライバの更新〕をクリックする。
4. ハードウェアの更新ウィザードが表示されるので、「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択し、〔次へ〕をクリックする。
5. 「SCSIとRAIDコントローラ」を選択し、〔次へ〕をクリックする。
6. 〔ディスク使用(H)〕をクリックする。
7. フロッピーディスクドライブに「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をセットして、製造元のファイルのコピー元に「a:¥」と入力し、〔OK〕をクリックする。

   「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」は「サポートディスクとは？」(75ページ)を参照して作成してください。

8. 以下のドライバを選択し、[次へ]をクリックする。

   N8103-65 使用時：[INITIO INI-A10XU2W PCI SCSI Controller]
   N8103-75 使用時：[Adaptec SCSI Card 29320ALP -Ultra320 SCSI]

   ヒント

   デジタル署名が見つからない旨のポップアップが出る場合がありますが、システム上問題ありません。[OK]をクリックし処理を継続してください。

これでドライバのインストールは完了です。
画面の指示に従ってシステムを再起動してください。

SCSIコントローラ(N8103-95)を追加接続する場合

システムにSCSIコントローラ(N8103-95)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされますが、その後、ドライバのアップデートが必要です。
システムのアップデートを実施する事でドライバが適用されます。

SCSIコントローラ(N8190-126)を追加接続する場合

システムにSCSIコントローラ(N8190-126)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作しますが、ドライバは自動でインストールされません。
ボード添付品からドライバをインストールしてください。

ディスクアレイコントローラ(N8103-81)を追加接続する場合

システムにディスクアレイコントローラ(N8103-81)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作しますが、ドライバは自動でインストールされません。
以下の手順でインストールしてください。

1. [スタートメニュー]ー[コントロールパネル]ー[管理ツール]ー[コンピュータの管理]から[デバイスマネージャ]を起動する。

2. デバイスマネージャで不明なデバイスとして登録されているRAIDコントローラをダブルクリックする。

3. [ドライバの更新]をクリックする。

4. ハードウェアの更新ウィザードが表示されるので、「このデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択し、[次へ]をクリックする。

5. [フロッピーディスクドライブ]チェックボックスをチェックし、その他のチェックボックスのチェックを外し、フロッピーディスクドライブに「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をセットして、[次へ]をクリックする。

   「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」は「サポートディスクとは？」(75ページ)を参照して作成してください。

6. [次へ] をクリックする。

7. [完了]をクリックする。

以上でドライバのインストールは完了です。
画面の指示に従ってシステムを再起動してください。

Boot.iniファイルで使用可能なスイッチオプションについて

Boot.iniファイルを編集することで、様々なスイッチオプションを使用することができます。使用可能なオプションについては、以下を参照してください。

- **サポート技術情報 - KB170756**
  Boot.iniファイルで使用できるスイッチオプションについて

  4GBを超えるメモリを搭載できる本装置では/PAEオプションの設定を行うことで4GBを超えるメモリを使用できるようになります。/PAEオプションは、サポートされている製品が限定されています。以下のマイクロソフトサポート技術情報を参照して確認してください。

- **サポート技術情報 - KB291988**
  4GB RAMチューニング機能と物理アドレス拡張のスイッチの説明

  以下に編集例を示します。

  (1) 「スタート」メニューから[プログラム]をポイントし、[アクセサリ]から「メモ帳」をクリックする。

  (2) 「メモ帳」で、「ファイル」メニューの[開く]をクリックする。

  (3) [ファイルの場所]から%systemroot%ドライブをクリックする。

  (4) [ファイルの種類]から"すべてのファイル"を選択し、ファイル名に「Boot.ini」と入力し[開く]をクリックする。

  Boot.iniの内容が表示されます。

  (5) 「Boot.ini」ファイルの[operating systems]に"/PAE"を追加し、上書き保存する。

  <Boot.iniファイルの例>

  [boot loader]
  timeout=30
  default=multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT
  [operating systems]
  multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT="Microsoft Windows 2000 Advanced Server" /fastdetect
  multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT="Microsoft Windows 2000 Advanced Server, PAE" /fastdetect/PAE

  以上でBoot.iniへの編集は終了です。

「起動/回復」画面にある「既定のオペレーティングシステム」で選択したエントリから自動的に起動するように設定することができます。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

本装置内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

重要

メモリダンプの注意

- **メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。**
- **ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。**

次の手順に従って設定します。

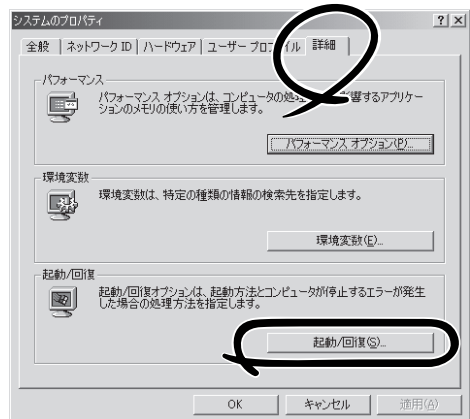
1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。

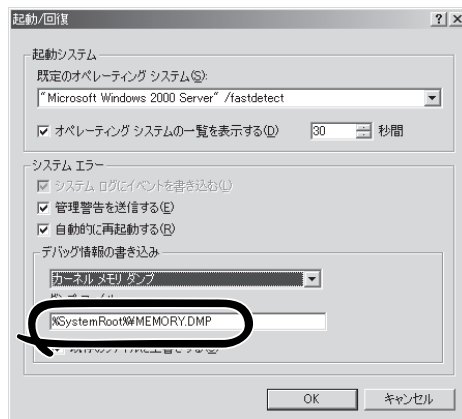
   [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

2. [システム]アイコンをダブルクリックする。

   [システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

3. [詳細]タブをクリックする。

4. [起動/回復]をクリックする。

5. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。
<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP

重要

- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+12MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により、採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

6. [パフォーマンスオプション]をクリックする。

7. [仮想メモリ]ダイアログボックスの[変更]をクリックする。

8. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を推奨値以上に変更し、[設定]をクリックする。

重要

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 「推奨値」については、「作成するパーティションサイズについて(55ページ)」を参照してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。
- 障害発生時に備えて、事前にダンプスイッチを押して、正常にダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。

9. [OK]をクリックする。

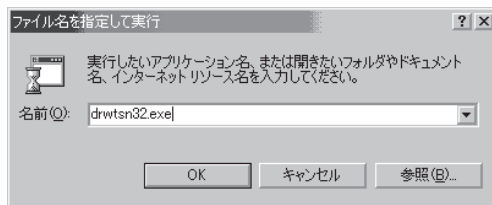
設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

ワトソン博士の設定

Windows 2000ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出すると本装置を診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。

   [Windows 2000 ワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。

3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。

   「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。

「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。

5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

   □ ダンプシンボルテーブル
   □ すべてのスレッドコンテキストをダンプ
   □ 既存のログファイルに追加
   □ クラッシュダンプファイルの作成

   それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。ネットワークモニタを使用するためには、インストール後、システムの再起動を行う必要がありますので、障害が発生する前にインストールしておくことをお勧めします。

1. スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。

   [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

2. [アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックする。

   [アプリケーションの追加と削除]ダイアログボックスが表示されます。

3. [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックする。

   [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。

4. コンポーネントの[管理とモニタ ツール]チェックボックスをオンにして[次へ]をクリックする。

5. ディスクの挿入を求めるメッセージが表示された場合は、Windows 2000 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットして[OK]をクリックする。

6. [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスの[完了]をクリックする。

7. [アプリケーションの追加と削除]ダイアログボックスの[閉じる]をクリックする。

8. [コントロールパネル]ダイアログボックスを閉じる。

ネットワークモニタは、スタートメニューから[プログラム]→[管理ツール] をポイントし、[ネットワークモニタ]をクリックすることにより、起動することができます。
操作の説明については、オンラインヘルプを参照してください。

管理ユーティリティのインストール

添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMには、本装置監視用の「ESMPRO/ServerAgent」およびシステム管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。ESMPRO/ServerAgentは、シームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。[スタート]メニューの[プログラム]やコントロールパネルにインストールしたユーティリティのフォルダがあることを確認してください。シームレスセットアップの設定でインストールしなかった場合は、第3編の「ソフトウェア編」を参照して個別にインストールしてください。

ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。

システムのアップデート　－Service Packの適用－

システムのアップデートは次のような場合に行います。

- システム構成を変更した場合（内蔵オプションの機器を取り付け/取り外しをした場合）
- システムを修復した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合
  （サービスパック関連のExpress5800用差分モジュールを適用したシステムの場合は、再度RURのフロッピーディスクを使用してExpress5800用差分モジュールを適用してください。このときサービスパックを再適用する必要はありません。）

本装置ではService Pack なし/1/2/3は、サポートしておりません。Service Pack 4以上を使用する必要があります。Service Pack 4が含まれたWindows 2000 CD-ROMを使用しインストールされた場合は、再度Service Pack 4を適用する必要はありません。

- USB-FDを接続した状態でシステムのアップデートを実施すると「デバイスの取り出しの警告」のポップアップが表示されますが、作業を進めて頂いても問題ありません。
- MO装置を接続したままシステムのアップデートを実行する場合は、以下の注意が必要です。

  <MOメディアをセットしている場合>
  システムのアップデート終了後、MOメディアを取り出してシステムの再起動してください。

  <MOメディアをセットしていない場合>
  システムのアップデート中に"ドライブにディスクがありません"というメッセージが表示されますが、［キャンセル］または［続行］を選択し作業を進めてください。

管理者権限のあるアカウント（Administratorなど）で、システムにログインした後、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを本装置のCD-ROMドライブにセットしてください。表示された画面「マスターコントロールメニュー」の［ソフトウェアのセットアップ］を左クリックし、メニューから［システムのアップデート］をクリックすると起動します。以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進め、Service Packを適用してください。

システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の本装置固有の情報や設定を復旧(リストア)できなくなります。次の手順に従ってバックアップをとってください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを本体装置のCD-ROMドライブにセットして、再起動する。

   EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。
3. [ツール]ー[オフライン保守ユーティリティ]を選択する。
4. [システム情報の管理]から[退避]を選択する。

   以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

応用セットアップ

システムの環境やインストールしようとするオペレーティングシステムによっては、特殊な手順でセットアップしなければならない場合があります。

シームレスセットアップ未対応の大容量記憶装置コントローラを利用する場合

最新のディスクアレイコントローラなど、本装置に添付のEXPRESSBUILDERに対応していない大容量記憶装置コントローラが接続されたシステムにおいて、OSの再インストールなどをする場合は、次の手順でセットアップしてください。

- BTO(工場組み込み出荷)により、OS組み込み出荷された状態からセットアップを開始する場合には、本操作を行う必要はありません。
- シームレスセットアップに対応しているボードの一覧については「EXPRESSBUILDERがサポートしているオプションボード」(14ページ)を参照してください。

1. セットアップしようとする大容量記憶装置コントローラの説明書を準備する。

   チェック

   本書の内容と大容量記憶装置コントローラの説明書との内容が異なる場合は、大容量記憶装置コントローラの説明書を優先してください。

2. ディスクアレイコントローラの場合は、コントローラの説明書に従ってRAIDの設定を行う。

   RAID設定の不要な大容量記憶装置コントローラの場合は、手順3へ進んでください。

3. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからシステムを起動させる。

4. 以下の設定でシームレスセットアップを実行する。
   - 「パラメータファイルを使用する」に設定する
   - アレイディスクの設定画面が表示された場合は、[既存のRAIDを使う]をチェックする

     ヒント

     コントローラによっては、設定画面が現れないことがあります。

   - [大容量記憶装置用OEM-FDの適用をする]をチェックする

     ヒント

     このオプションをチェックすることで、フロッピーディスクで提供されているドライバを読み込ませて、シームレスセットアップを進めることができます。

5. シームレスセットアップの途中で[大容量記憶装置用ドライバ]をコピーする。

   大容量記憶装置コントローラに添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、以降は画面のメッセージに従って操作してください。

マニュアルセットアップ

本装置へのオペレーティングシステムのインストールは、シームレスセットアップを使用することをお勧めしていますが、特殊なインストールに対応する場合、マニュアルセットアップが必要になることがあります。

シームレスセットアップを使わずにWindows 2000をインストールする方法については、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows 2000 Server/Microsoft Windows 2000 Advanced Serverインストレーションサプリメントガイド」を参照してください。また、あらかじめEXPRESSBUILDERから各OS用の「サポートディスク」を作成しておいてください。

導入編

オプションボードを接続する場合は、オプションボードに添付の説明書も併せて参照してください。

サポートディスクとは？

シームレスセットアップを使わずに再セットアップするときの手順「マニュアルセットアップ」では、「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるサポートディスクが必要です。
「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」には、Windows 2000のインストールで必要となるRAIDコントローラやSCSIコントローラのドライバなどが含まれています。
マニュアルセットアップを始める前に「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を用意してください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを1枚用意する。
2. 周辺装置、本装置の順に電源をONにする。
3. 本装置のCD-ROMドライブに添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
4. CD-ROMをセットしたら、リセットする（<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。
5. ［ツール］メニューから［サポートディスクの作成］を選択する。
6. ［サポートディスク作成メニュー］から［Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER］を選択する。
7. 画面の指示に従ってフロッピーディスクをセットする。

   「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が作成されます。

   作成した「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」はライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

Windows(Windows 95以降、Windows NT 4.0以降)が動作するコンピュータをお持ちの場合は、Windows上で「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットすると起動する「マスターコントロールメニュー」から Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERを作成することもできます。

論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順

再セットアップを開始する前に、万一の場合に備えて必ずデータのバックアップを行ってください。

再セットアップ手順

1. 本書および「インストレーションサプリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセットアップを開始する。

2. 次のメッセージが表示されたら、OSをセットアップしたいパーティションを選択する。

   次の一覧には、このコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。

   上下の方向キーを使って、一覧からパーティションを選択してください。

   重要

   システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字はセットアップ完了後は修正できません。この画面で正しいドライブ文字が割り当てられていることを確認してからセットアップを続行してください。

3. 本書および「インストレーションサプリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセットアップを続行する。

   以上で完了です。

   ヒント

   セットアップ完了後、再セットアップ前とドライブ文字が異なる場合があります。ドライブ文字の修正が必要な場合は次項の「ドライブ文字の修正手順」に従ってドライブ文字を修正してください。

ドライブ文字の修正手順

以下の手順では、システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字は変更できません。ご注意ください。

1. [スタート]メニューから[マイコンピュータ]を右クリックし、[管理]を選択して[コンピュータの管理]を起動する。

2. 左側のウィンドウの中から、[ディスクの管理]を選択する。

3. ドライブ文字を変更したいボリュームを選択して右クリックし、[ドライブ文字とパスの変更]を選択する。

4. [変更]をクリックする。

5. [次のドライブ文字を割り当てる]をクリックし、割り当てたいドライブ文字を選択する。

6. [OK]をクリックする。

7. 以下の確認メッセージが表示されたら、［はい］をクリックする。

ボリュームのドライブ文字を変更すると、プログラムが動作しないことがあります。このドライブ文字を変更しますか？

8. ［コンピュータの管理］を終了する。

以上で完了です。